

昭和三十一年三月十七日招集(第五号)  
第一回市議会定例会々議錄



館山市議会第一回定例会々議録（第五号）

昭和三十九年三月招集

一 三月十七日（火曜日）

一 議事日程（第五号）

第一 行政一般通告質問

午前十時十分 開会

議長（黒川佐太郎君）本日出席議員数二十九名。

こゝより第一回市議会定例会第五日の会議を開会いたします。

こゝより通告による行政一般質問を行ないます。

かねて市通知いたしました通り三月十五日正午まで提出ありました議員及びその順序はお手元に配付の

通りであります。なお、この際申し上げます。通告質問  
者は以上の通りであります。他に関連質問などの中発言  
も多々あります。このことと存しますが、本日の時間、都合もあ  
るかと存じます。で、通告者の中、発言といいたします。で、  
了、承下さいます。よろしく願います。

このより順序により発言願います。

一番議員 吉田勇治郎君

(一番議員 吉田勇治郎君登壇)(拍手)

。一番(吉田勇治郎君)私は市、案内、通り、質問をいたした  
いと存じます。

本市におきましては水道事業といいたしまして、公営事業  
と私営、また一部組合と時代、要請に上水道問題  
は放置できない状態かと私は考えるものであります。  
まず、本件について考えるとき、特殊事情を持つ館山市

は全国でもまじな環境のもとに房州水道株式会社を奉仕  
的理念を理解し、この点が本市の発展を今日まで支えて  
きたと考えるのであります。

その点房州水道さんに対して、深甚なる敬意を表する  
ものであります。

しかしながら、京葉工業地帯の造成並びに飛躍的経済  
の成長等に伴い、館山市もよりよきを求め、諸般の施策  
を遂行するには時代に曙光する大発展のためには上  
水道問題は今日のままでは行かない。

現況でも特に夏期には深刻な水不足、不満の声は高い  
ので、状態ではなかなか時代に即応したところを要望に  
満たない。公共福祉の増進のためにも水の確保はこれ以上  
現況のままの施設に依存することは、私は行政の理念に反  
するものではないかと存するのであります。

これは何人も同感ではあるまいか。これが計画的整備拡充は、いわゆる市政の要諦ではないかと考えるものであります。飛躍的大前提なる水資源調査も昨年一応の結果を見、おおむね調査を遂行得た旨、三十八年九月二十五日、金協に報告されておるものであります。

合理的で清潔にして安価にして豊かな水を供給することが文化に先んずるゆえんではないかと思つてあります。

いわゆる飛躍的大前提のもとに公営企業とならう。自然地形にして市営水道計画を立案し、公共団体は存立の意義に合致するよう、水道計画を立案すべきではなからうかと考えるのであります。その点について、中計画あらば中説明をいたさなければいけません。

次に観光事業面、振興について特に所信表明の中に、外資導入をもつて、これを振興させていくという、かような

趣旨がございまして、たゞ、その構想につきましても、永い間、  
懸念がございしますが、かような表現は何れと聞くのでござ  
います。が、なかなか、実施に当たりましては、今まで得たもな  
ございせん。

今後はいかような方法でこれを實現するか、また、その構  
想については、どういう考えを持っているか、具現的構想  
について承りたい。

なお、いろいろ予算編成にも苦慮されておりますが、観光  
事業について、いろいろと苦しい予算ではあるが、騒ぐと  
ころ、いわゆるこれをさして、これをせねばならぬというよう  
なところにはなるほど観光予算を渡す、予算を流して  
おるやに考えられておりますが、こと観光の問題に取って  
申し上げるならば、新味を持つ観光方面の予算というも  
うは、私は配慮に欠けると申しては失礼かもしれませんが、か

うに解釈できるものであります。

特に館山市として一まゝでは所信表明の中にも表現されておる通り自然美を生かしたところの観光でいく。かように申されてあります。かくいふば私は特に取り上げて今新味をはなつてゐるところの所々崎々台方面の整備というものは館山市にとつて急務の問題であらうと思ひますが、こゝ点については何う言及されておりました。予算に一文の数字も見受けられないと私は考へるものであります。こゝ点はどういうふうにお考へになつておられるか。

館山市は、県南唯一の都市として観光にクローズアップして参りました。今日非常にくろお客まゝはふえて参つたのでございますが、キャンプ村といひますが、こゝが随所にはらへて青少年の教育上、風紀上、ゆゆしい実態を見せ付けておるものは我々もよく見受けておるものでございます。

この点につきまゝしてお互いにくらゐる人も喜んでキャンプがで  
き、また受け入る側も風紀や地元に迷惑をかけないような  
方法を立てていただくが本来だと思っています。が故に私は館  
山市金城をながめまゝして北条海岸のサながめることなく、  
こゝキャンプ村の指定を随所にすることは、まず、観覧の第  
一步として必要ではなからうかと思つてあります。

この点どう今後処置していかれるか、お伺いいたします。

最後に幼児教育という問題でございますが、橋本さん  
りかえつて見ますと、こゝでちょうど九回乃至十回、予算  
市会に臨むものでございますが、非常に片手落ちな教  
育環境を存しておつたのではなからうかと思つてございま  
す。何回も私はこの問題に取り組みまして、こういう要  
望を申し上げたんでございますが、ということとは、館山市金  
小學校、十三校でございます。その十三校の中に六校が公

五、幼稚園を持つておるうでございます。あと一校、と申し  
ましても、人員数からいつたならば、ほぼ四分一位が相当する  
学校に、幼稚園が設置されておらないのであります。  
根本的に申し上げまして、私たちは常に平等に扱わなければ  
ならないという観点からいたしまして、当然各小学校に必  
置すべきが本来ではなからうかと考えるうでございます。

なお、幼児教育は私がここで申し上げるまでもなく、五、六、七  
歳で人格のある程度まで成長させる、形作らねるといわれ  
ております。どうか教育の機会均等の面から見まして  
も、予算があるとかないとかは、これはあるやらないには影  
響ないと考えるうでございます。その点におきまして、必  
置すべきが本来と存じます。この考え方について、ど  
うお考えですか。お伺いいたします。以上お伺いいたしま  
して、私、通告質問を終ります。（拍手）

(市長 本間 譲君 登壇)

・市長(本間 譲君) 吉田議員さん、中實向に封一してお答えいたします。

第一点は水道の一元化についてでございますが、市承知のとおり市内の水道は一番古いのが房州水道、宮城水道、南条水道、現在施行中の鉈切水道、それから波左間水道、こういうふうな水道がありますが、これはいろいろと歴史と住民の犠牲とによってできておるわけでございまして、また最近三芳、富浦、館山と三市町村によりまして組合互の水道を計画中であるわけでございますが、水道の一元化については非常に私も重要なことと存じます。が、これはなかなか金もかかります。容易ではないと思ひますが、最近計画の中、三芳、富浦という一部組合の水道を完成してから皆さんと相談して一元化をはかろうと考えて

おる次第でございます。

次々資本導入による観光開発と構想について、具体的にということでございますが、最近観光先進地の発展状況を見ると、その規模において特に大型化しておることが、顕著でございます。

これは観光客の増加、或いはその嗜好するものが規模において目を見張るようなものでなければ、満足できないようなふうになっておるわけでございます。

要するに、このような大規模施設でなければ、魅力を感じないであり、しかも最近、観光旅行のあり方はますます大型化、団体化、一つつあります。

これに対処する観光施設は、観光客の嗜好に適合し、その受け入れと滞在性に十分、こころえ得るべき態勢がなければならぬ。かような施設になり、建設となると、当市

う貧弱な財政の中で不可能ともいえるわけでございます。従つてこゝろの観光事業は、民間の大資本導入をも有効的に導入するよう努力したいと考えております。

現在やっております具体策としましては、ゴルフ場の建設、休暇村の施設整備等がある。さらに土地買収手続きによつて東成の洲崎地区開発及びゴルフ場用地、付近の植物園の造成、亜熱帯植物園計画などがあります。

現在進行中の海岸道路事業完成の暁には、当市にとつて最も重要なことになるであらうと思はれる観光客の滞在性の確保ということから旅館ホテルや宿泊施設の大型化におきまゝて集結。一カ所に自決するようにホテルが集結するように努めようという考えをしておる次第でございます。

次に洲崎の周辺を整備についてでございます。こゝは京

成電鉄株式会社、資本導入によつて開発をしていきたい  
と考へておりまして現在計画の内容はあそこの一万五千  
坪ばかり国有地がございますが、その六千八百坪を市が  
政府より土地に對する払い下げを京成に同意いたしまして  
それが進行中でございますが、果て話によりますと、大体  
話がついたというふうなことでございまして、それについて京  
成としましては、ホテル、レストハウス、管理事務所、休憩  
所、プール、釣り堀、遊技施設、造園整備、駐車場  
等、そういうものを作りまして、予算が約一億一千万と  
いうことで、京成の方では計画としてあるわけでございま  
す。キャンプについてでございますが、入浴、海岸に地区を指定いた  
しまして、設備をいたしてございしますが、なかなか設備が十分  
にいきませんので、十分な効果をあげなかつたのでございま  
す。が、本年はさらにいっそう研究して設備を充実にしてや

たい。なお、最前、西岬地区におきまして非常に観光客が海水浴客が多く、いろいろある中で、西岬地区にも同様の整備への施設を、たい。こういうふうに考えておるわけでございます。

最後に幼児教育でございますが、これは重大なことでございまして、当市におきましては、これには相当力を入れています。やっておりますが、全国的に見ますと、私立が非常に多いようでございますが、幼稚園教育は館山市が、現在におきましては相当の赤字を持っておりますわけでございまして、なかなか、障害の面から見ましても、容易ではないわけでございまして、政府の方でも、これについては何か考えてあるという、新南なんかにあるわけでございますが、国において補助することになれば、非常に結構だと思えますが、今直ちに全部に実施するという

わけには参らぬかと存するわけでございます。

それからあつたことは係の方から補足しますから申し承  
願います。

・一番(吉田勇治郎君) だいま市長さんから申説明があります  
一文中でさらに質問をされていただきます。

上水道一元化について私の表現が十分でないかもしれません  
んでしたが、今申答弁にりますと、組合立完成後、こ  
も考慮したい。かように申答弁がございまして、私考える  
うに、組合立をやる上においては、まず大館山市の発展の  
ために大前提であるところのこの水の問題というものは、  
基本方針を決定して、かかるうちに組合立の実現をは  
かるべきだとかうに考えるものでございします。というこは  
組合立すなわち那古、船形地区の水の不足を急を要  
するということは、当然認めるものでございします。

早急にこゝは実現すべきでございますが、私は行政理念の面から申し上げようならば、こゝはやはり一元化をいたしまして大きな事業を受け入れる。あるいは観光事業、各款にわたる発展のための源泉ではなわろうかと思うのであります。

この水道事業の一元化は、今市長さんが申さるゝた一部組合の事業の完成後ということとは、滞すぎはしないかと考へるものであります。こゝ点いわがですわ。なるほど、いろいろな特殊事情がございますことは、私とて、館山市の議会人として当然了としておることでございますが、いかに「ならぬ」ことをいにするか、私は、為政者として、努めではなわろうかと考へます。が故に財源の有無ということは、仕事にまつてはある程度まで、それは通らないといふことはあるものではなわろうかといふことを申し上げたい。

いのでございます。この点いかがですか。

それから観光導入に対するお考えは了といたしまして、この点につきましては、十分なる御努力をお願いいたしたいと思ひます。

神戸崎周辺の開発計画について、今るる説明がありまして、ある程度了といたしますが、一か一か、その実現までは、何とか、手を打たなければならぬということ、現状ではなかりかと申し上げたいのでございます。

今神戸崎灯台に上るあの橋は、両にかりますと、泥濘と化してしまふ。かような状態に放置して置くことは、観光を担当する方々がまじめに見ておるならば、こういうことではないと存するものでございます。既存のものも、保持

できないで前進には、とうてい遠いと信ずるものであります。

これは万端に通じます。その点どうか、お伺いいたしたいと。

思っています。

それからキャンプ村につきましてはいろいろ市説明がございす。が西坪地区と申さず、神戸或いは富崎方面にもしかりかと存じます。が故に係を研究させて潰漏らないようにキャンプ村を指定していただきたい。

もう一回くわしく係の新年度における計画を市説明願いたいと存じます。ニは市長までびくして結構でございす。幼児教育についてでございますが、全く私たちが、財政事情をながめるとき一かりと存じますが、一かり、館山市の次代をになう子供たち<sup>が</sup>年々おるでございす。

制度がこうなるまで待つうが当然でしょう。制度の問題も加味さしますが一応館山市においては約四分の三程度の子供が幼稚園教育を受けておるであります。受けないのが四分の一だ。こういう段階のとき考え方をぜひかえていた

だいたい、やろうと思えば十分できるのではなかろうか、と思う  
うで、その点、いま一度、市説明を願いたいと存じます。

できなければ、一校ずつでも必置していく考えがあるかどうか、  
以上お伺いいたします。

・市長(本間譲君)お答えいたします。水道の一元化は非常に  
重要なことでございますが、実際においてやってみますと、  
いろいろ水源池やなんか依る場合におきましても、現在、  
三芳の方にお願ひして進めておるわけでございますが、な  
り住民感情とかいろいろなものがありまして、すぐやるという  
ことは住民として喜ばないようです。そんなことはさて置  
いても一元化するには莫大の金がかかる。ですから、  
まず、三芳、富浦の協力で一部組合を依ろうとして  
進んでおります。これが三億二、三千万円かかるわけでござ  
います。この仕事をやってから除々にあちらの方の方々に

説得して一元化をはかることを進めたい方がいいて考えており  
まして、今すぐにはやるという考えは持っておりませんが、今後そ  
れらもすが、完成した上に地域住民の方々に納得するよう  
に、まして一元化をはかつて参りたいというふうに考えます。  
幼稚園の問題につきましても、やはり承知するように幼稚園につ  
ては約一千万位、赤字を持っているわけでございます。まして国  
の方で方針を立てて補助金なんかを出さない限りは、今  
幼稚園をふやしていくわけに参らないと考えるわけでござい  
ます。洲崎付近、灯台の辺り、道の問題でございますが、これに  
つきましても、十分検討して参りたいと思ひます。

。観光課長（小沢正昭君）ただいまの吉田議員さん、中井議員の  
中でキャンプ対策関係についてお答え申し上げます。

私ども夏季観光対策の中で最も手を焼いておりますが、  
キャンプ対策でございます。彼らの動向を詳しく見ており

ますと、ほとんどが一泊乃至二泊の関係とそれから必ずずしも善良なお客たちはかりではないという点でございます。極端な例を申し上げますと、サンダルばきでテント一張かついで日が暮れてからの登山着の汽車でやつてきて、そのまま、いつくというふうな実例もかなり見受けておったわけで、ございしますが、この方の対策といつて、昨年度八幡海岸に地区を指定いたしまして、そこへ集結してくるようになり、三取得して回つたりしたこともございすけれども、やはりこれを集結せしめるには、それに適応した施設の整備ということが必要でございまして、給水施設等が整備されておらず、ところにはどうしても足りないというふうな関係と彼らの嗜好する方向がいろいろございまして、そのような関係からこれを一カ所に集めるということとは、かなり至難な関係であるということを確認したわ

けでございますけれども、かといってこれを放置した場合、市民に対していろいろな迷惑行為を及ぼすという事例から三十九年度は積極的にならうという関係の地区指定を行ないましてそれに対してするところの整備をはかつて参りたい。その関係で一応の予算計上はいたしてございますけれども極端に申しますと、この対策といひましても布良海岸から船形海岸に至る実に長い海岸線の関係もございまして一応九年度の計画といひましては、これらの海岸線における実情に応じまして逐次やりの施策を投入するという形が仕方がないかと考えております。昨年の夏の例でいたしましても、ただいま吉田議員さんから市指摘の点は私初めて伺ったわけで風紀的な関係よりも何か、たき木の盗難事故というふうなこともあったように伺っておりますので、そういう関係からも取り締りと、

観光客誘致と相矛盾する関係がございまして、なかなか、  
むづかしいわけでございすけれども、極力ふりかえり人にも  
悪影響がない。しかも観光客が多く入るために誘致面で  
好結果ももたらすような方向で考えていかねばならない。  
そういう関係もございすので、それと、私ども非常に人  
員が手不足である関係から、くわしく観察できなかった  
わけでございす。が、本年度はシーズンに入る前に、地  
元の方々とよく打ち合わせをいたしまして、対策に万全を  
期して参りたい。このように考えておるわけでございす。  
さらにもう一点、洲崎付近の道路をほじめとする補  
修、開発関係でございすけれども、これは、市承知の  
通り、国定公園の関係でございまして、県の計画課の方  
で取り上げて、公園事業計画の中で処理される部内  
という関係もございまして、三十八年度より年度当初に道

路補修と駐車場或いは公衆便所の整備、そういった関係の事業計画を提出したわけでございますけれども、如何せん、やはり県といえども、県下各市にまたがるところの事業計画の中で、館山市といえども、では現在、休暇村関係の膨大な資金投入があるという関係と他地区とう比較の關係から、こゝが一応見送られたという方が実情でございます。

従いまして、三十九年度においても、あまり期待的なことは、できないと思いますが、なるべくあそこ、道路と道路の拡張、整備、造園、駐車場、公衆便所、そういう一連の事業が、一早く実現できるように努力はいたしたい、というふうに考えます。

一番(吉田勇治郎君)もう時間がございませんですね、私は、これで了解でなくて、時間切よといえども、適当なとき

賛向を継続されていくであります。

・議長(黒川佐太郎君) 一四番議員 志村信作君

(一四番議員 志村信作君登壇)(拍手)

・一四番(志村信作君) 私が賛向は第一点が観光事業の理念  
確立についてでございます。施政方針演説におきまして、  
市長におかれましては産業の振興と観光施設の整備  
拡充と教育施設の整備拡充、その内容の充実という、  
この三大柱をかがりまゝして熱意のこもった決意を  
表明されましたことは、まことに私力強く感ずる次第でござ  
います。

しかしながらこれが目的達成にはこれから先、前途多  
事多様な困難が伴うことと察しができらうでござい  
ます。そこで、このような困難を多少なりとも軽減す  
ることは、所期の目的達成上、きわめて重要な意義

を持つことと考えられますので、三つの基本のうち特に観光  
部の方につきまゝして、こゝからお尋ねする次第でございます。  
そもそも観光事業の円滑な推進をはかるためには、まず、  
たくさんの方の協力を得ることが絶対要件でございます。  
こゝなくしては、事業の遂行はまことに困難でございます。  
よつて、この観念に立つて組織の力を利用することが、事業  
振興の理念だと私は考えております。

観光事業推進の妙を發揮するならば、よろしくこの理  
念に基づきまゝ観光協会、商工会議所、旅館組合、  
国鉄、日東交通など関係機関に緊密な連携を保  
ちまゝして、こゝが高度に利用するとともに、地元民の協力  
を得ることが大切だと考える次第でございます。こゝに  
往々にして、こゝらの連携が不十分ではないかと考える  
ふりがございます。

この点について市長の所見をお伺いする次第でございます。  
次に第二回でございしますが、重ねて南房総国定公園に  
指定されるというので、南房総国定公園記念碑を建てる  
意思があるかどうかという質問でございます。

このことにつきましては、私が先に昭和三十五年の三月十  
五日の定例会でお尋ねいたしたのでございますが、それか  
らできるだろうと思っておりますけれども、今までのいきま  
せんために年度もかわりまして、重ねて質問いたします次  
オでございます。

南房総公園が指定されるにつきましては、当時は金市民  
がござってこの指定を希望いたしまして、地元の方々が、諸先  
生方もこの努力をされた結果、他よりも比較的早く  
できたのだという喜んでおった。この喜びを後世に伝える  
ことは記念碑においてはほかにならぬのでございます。

よって市独自の立場から記念碑を建立して永くその栄  
誉を後世にうたうべきであるというのが、私の持論でござい  
ます。私の考えを申し上げて賛否に答えていただきたいと  
思います。

当時とかかりがございせんので、十万円以内あればよろう  
石碑の記載事項は、現在五、六年前のかりませんけれ  
ども、国定公園に指定されたのはいつだと聞かされても忘  
れてしまひまして、たいていの人は答えてくれません。だから  
昭和三十三年八月一日に指定されたので、碑の面には、  
昭和三十三年八月一日、南房総国定公園指定記念碑と  
まん中に書きまして、建立の年、月、日、熊山市、これだけ  
でいいでございします。形は丸くても、傾斜しておっても、  
これは考えていただければいいと思います。

材料は良質の石をもって依っていただきたい。これは後

世に伝えるうです。から、こういうことを申し上げるわけで  
金属性で、から途中でもなくなつたりするこ  
とになります。石がいいと思います。

それから、場所は都市計画の支障のない、かつ、大衆  
の目うつきやすい場所ということでごまいして、三十五  
年の三月の定例議会で、そう例として申し上げました。  
再び繰り返すわけでごまいします。例えば一例ですが、石で  
でき、よりために、永く現在まである。それが東西史家の  
注目をおびておるといふことを申し上げてある。

インドのアユカ王は、歴前三百四十九年、仏滅約三百年  
後でございます。このアユカ王が非常に信仰心が強  
いために、石柱を建てて、文を刻み、永くこれを記念いたし  
ました。この石柱は、アユカ王当時の遺跡として、今  
申し上げた通り、非常に貴重なものになっております。

これは今から逆算してみますと、二千二百十四年前のことではございます。石であるためにみんなに永く持ったその石柱の文はどういう文句かと申しますと、「天愛善見王はかく宣す、ダルマは最勝なり、一からばダルマとは何ぞ、それは慈悲衆善業、よんびん真実、清浄を要す、以上のような簡潔なものですが、今日まで石にきざんだもので、こういうふうに永く残っております。

ス里族と黄金谷に在り、ボートで運行がたまに自然にこちらにくるお客も多くなりまして、たんですが、国立公園に指定されたというので、いっそう全国的に有名になりまして、市でも鳩山荘の増築やら、国民休暇村もだんだんできてきます。こういうことは、直接国立公園に指定されたから全部とはいわれませんが、やはり影響は多少あるかと思ひます。従つてこういうことを記念に

するためにも非常に有意義だったと思います。

それにつきまして前市長さんの答弁ですが、参考のために  
 申し上げておきます。「南房総国立公園の記念碑」  
 の設立の御意見ですが、これは去年の四月から計  
 画いたしまして、すでに館山市費ならざる金と申しま  
 すわ、国立公園協議会の方の金が四万円ありま  
 してさらに四万円、合計八万円の予定を持ちまして、立派  
 な設計書もできておりますし、北条海岸に建てよう  
 というふうな計画になっておりますが、あと四万円の財源  
 として、館山市にお願いして出せるか、どうかという相談  
 も受けておるわけでございますが、私は出せないといつて  
 つっぱっておるわけでございますが、皆さん方の御協賛  
 があれば何とかできると思います。建てなければいけな  
 いと知っていただけ、こういうふうになっていただけでござい

ます。その場所はレフト・ハウスの左側という場所まで  
きまつてゐるわけでございますが、あと四万の金がないために  
まだ着工の禪びになつておりません。こういうふうなや答弁  
でございまして、私にはできるだろうと思つていまうたが、今  
何ら、音沙汰がございせんから、重ねて本日質問いたします。  
これまで話が進んでおつたうでございしますから、是非これを  
完了していただきたいと思ひます。

これは我々世代の館山の私どもも義務でもある。こうい  
う感激を後世まで残す価値が十分あると存じます。  
や答弁を願ひます。

第三点、内取の育成、助長について、当今農業基本  
法とか、中小企業基本法や或いは水産業基本  
法が制定され、いろいろ近代化構想改善を要すること  
によって、世をあげて経済の高度成長が叫ばれては、あり

食 山 市 議 会  
ますが、そううちでいまもって取り残されておりますものが、内取でございます。これは社会福祉事業の一環としてお考え下さいまして、や答弁願いたいと思います。

私はこの件につきまして、少く調べて見ましたが、現在内取をしている人がどの位あるか、調査ができませんが、こういう人たちが内取をしなければならぬという事情につきましては、いろいろあるようでございます。

例えば、かせいではありますけれども、家<sup>疾</sup>難も多い。生活がでないから生活の一部に充てられないという人や、生活にはあまり困ってありませんけれども、子供を将来、だんだん上う学校にやらなければいけませんですから、それがだめにやっておくという人もありまして、また、時内もある。労力も余っているから内取をやっておくという人もあります。――身体障害者の人もやっております。

それから外に出て働きたいけれども働きはがないから、やむを得ず、やっておりますという人もあります。

またサイでも内取をやつて電気代でも、風呂銭一つにでもなければいいと思つてゐる人もございます。というふうな次でございまして大体今や内取は安過ぎますので、もう少一上るような仕事があればいいという人が一般に内取をやつておる人が考えでございます。これははっきり言うことができません。

中にはあまり収入が少なくて、風呂にいく度数を減らしてなるべく風呂にいかないようにしておるというひどい人もございます。こういう状態でございますから社会福祉の面からお考え下さいまして、取り残された内取をよく見つめて下さいます。何とか内取をうっている人がより以上幸わせになるように生活が豊かになるようなことをお考え願いたいと思います。市もお考えはいいがでございまして、このように

質問いたす次第でございます。

(拍手)

議長(黒川佐太郎君)休憩いたします。

午前十一時六分

休憩

午前十一時二十分

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
一四番議員に対する当局の答弁を求めます。

(市長 本間譲君登壇)

市長(本間譲君)志村議員さんの質問に対して答  
弁申し上げます。

まず観光事業推進の理念確立についてでございます  
が、観光事業推進の方向は大別して二つあります。

第一点は低開発地域、観光開発であり、第二は都市

周知の開始であります。自然条件を中心とする南房総  
の観光開発は地域住民から見た場合、次の方向が期待  
できると思います。

観光客の流入に伴い消費支出が直接地域住民の所得向上に資するとともに地元民製品特産品などの現地産業の振興をもたらす。総合的に見てアン意識の改善にも誘発効果がある。よってその地域で農業等他産業に及ぼす関連を考慮する必要がある。或いは事業推進につきましても自然の紹介、史跡、名所、天然記念物などの文化財についても保護をはかるものと、これは産業開発との関連に十分留意し、両者の調整をはかるとともにゆり音心見もありたい。地元住民並びに関係者の協力を得るよう推進したいと思ふ次第であります。

て南房総国定公園は中承知の通り富津岬より太東岬の間、海岸線が指定されており、県としまして一応表示してあることとございまして現在当市には、北条海岸、洲崎砂山等に表示してありますが、かような次才でありますので、館山市のみが国定公園というわけでないで、市内に建設するものもどうかと思ふ。いまのところ、これを建設する意思は持っておりません。

最後、内取の育成についてでございますが、内取の幹旋については婦人団体連絡協議会に委託し、年間二万四千の委託料を支出し、その育成助長に努めております。

内取は軍手のかがり、毛糸手袋の刺繍、貝細工等で幹旋件数は、年間二百五十人から三百人に達して

おりますが、なむいっそう二の力をおさまりて、やうて参りた  
いと存じてゐる次才でございます。

ただいま市長さんの御答弁でございますが、いささか迷へら  
れたところは、内容を多く申さなうで、私は内容よりも、その  
内容を実行する前段階として、準備工作ですね。この  
ことも私はお伺いいたすでございます。だからいささかの  
ずいゝ感じがいたします。

具体的に申し上げますと、理念ということをお伺ひたうござい  
ます。これは心構えでございます。いかに立派な大事業  
として、館山市の将来、館山市民の福利の増進という立  
場からお考えになつてやうていうううやることでも、それとやる  
前提として、準備工作が粗筋であつてはいけなひ。地元  
民の協力なくしてはいけません。十分連絡が取りていない  
ためにやうといつても、にっちもさうちもいけなひ。それまでによ

く準備ととうえてひくてはいけないうことなんです。それで観光事業をする面につきまゝて具体的に申し上げますと、例えばどこが観光地域でも観光協会があります。観光都市と名を付くところで観光協会がないところはありません。

まず観光事業に対しては観光協会にくちも話して密接な連携を保っていく。その他先ほど申し上げました通り商工会議所、国鉄、その他交通機関、旅館組合、その他関係業者と連携を取る。なおかつその上に地元民の協力や理解が重要です。そういう一致したところで事業を始めたい事業ができる。事業を始める前に理念を確立しなさいと申し上げた。

この点を重ねてお伺いいたします。

それから南房総国定公園の記念碑を建設すること

は建てる意思がないとはっきり申さなければ、これは渠でも建て  
てあるし北条海岸にもあるとおっしゃったが、あゝは記念碑  
ではない。表示板だ。記念碑であるならば、月、日、日が記入  
してあると思うんです。例えば、北条海岸の渠で建ててい  
ます一例を申し上げますが、あゝは南房総国定公園、北条  
海岸、千葉県、こゝだりーと書いていない。横書きで大き  
さは厚みが十五センチ幅約二メートル、高さが一メートル半、  
基礎が四脇のところに石がついてあります。それが、二メ  
ートル八十、あゝは掲示板です。ここが南房総国定公  
園の中で北条海岸でござんという表示でございます。

性質が全然違ひます。あゝとき、皆さん方が代議士にお願  
いしたり県下議員にも願ひたり、誰もこのことについては  
反対がなくて早く指定さうたいというのであつて、一々もよそ  
の希望するところでも、早くできて喜んだ。だから市独自

と申し上げた。海岸線は長いし、南房総国定公園です  
から隣接の町村あたりも当然あるし、外房或いは内房  
の方でわたってはおりますが、独自の立場で建てることは  
まじつかえない。金額もわずかだ。こういうことはお世話に  
なつた人たちがや努力に對し、ましても感謝の意味も含  
まゆるし、またいつ国定公園になつたということを知らぬ人  
が多い。知らないでもさうつかえないでこうやっています、  
それくらい、世紀の偉業でございすから、是非建てても  
らいたいと思います。市長に意思なしとあるならば、こゝも  
やむを得ません。そういうわけで重ねてや、答弁いたします。  
内取のことについて、婦人団体の方に委託してある。おまかせ  
してあると申さいます。が、こういふ取り残された人が多い。  
農村地帯におきましても、あまり内取はやっておりませんが、  
今度は高度成長の近代的設備の事業になつてきます。

どうしても従来よりは体も骨が折れないことだし時間も  
ういてくると思います。これは今まで海岸地方ばかりの  
内取のようにも思われまいが、所頃は農村でありでも  
内取は必要になってくる。労力を提供するより勤労精神  
を養う上でサーでもやる。なければ人手もふえます。  
ます面白くなり委託するばかりでなく市が積極的にやっ  
ていきたいと思います。

市が昔の授産所みたいなにああいう形式でもいいから積極  
的に乗り出して、場合によっては吏員を一人や二人置いても  
骨を折っていただくまで、しつちゅう東京の商工会議所あ  
りについて、有利な内取をどんどんうちに導入してくる。  
そうして積極的にお定さんはいかがでしょうか。やってもうえ  
ないかというふうなことでしてやればいいと思います。内  
暇はあるから仕事があつたらやってみようという方もあると

思います。ただ、婦人団体、ほかの団体を利用してすることも結構ですけれども、サ一でも、市民の福利増進と勤勞精神を涵養するためにもぜひ積極的に行っていたいただきたい。講師あたりを頼むということも全面的に行っていたきたい。市が社会福祉の面からお金を出してやるのが社会福祉でありますので、これを積極的にやって下さるようにもういつべん考慮願いたい。

それから先ほど申し上げました観光問題に关しては、観光協会と常に連絡を取っていたきたい。これはよく考えてもらわなければならぬ。前後いたしまして、この点について、中答を願います。

市長(木岡譲君)お答えいたします。実は志村議員さんの質問、観光事業推進の理念確立についてということでございます。ヨ一して私に取りヨ一ては、非常にむずかしいことで考えるの

わけでございます。いろいろな検討をしまして勉強してこういうお  
答えになったわけであります。が、志村さんのおっしゃるに、結局  
地域住民とか、地域団体の方々の協力がなければいけないとい  
うではないか。それを基本にしなければいけない。こうおっしゃる  
かと思いますが、これにつきましては、実は観光審議会もご  
ざいます。また観光協会、商工会議所もございます。理  
論的にはいろいろ相談をしておりますが、例えば城山や南苑に  
ついては、何といっても地域の方々の賛成を得なければできない  
ことでございまして、地域の方々と討議相談をしまして申議を  
もたせておるようなわけでございます。今後とも今志村さんのお  
っしゃる観光協会商工会議所、地元、そういう方々の理解を  
願って強んで参りたいと考えております。

それから、記念碑の問題でございますが、各所に国定公園  
の表示がしてございます。それから、それでいいんじゃないか。別に

そういうものを建てるといふことになると安くもできないと思  
います。それで国定公園だといふふうには大衆が見れば目的  
は達していいのではないかと思ふわけでございます。

今、そういう記念碑というものは建てなくても用が足り  
る。こういうふうな考えておきわけでございます。

それから内取り轉送については婦人連合会にはやり  
まかせずに市でも積極的にやつたらどうかというお話  
がよろでございます。ごもつともう話でございます。

竹メリヤス工場ができることになっておりますが、これは内  
取ではございませんが、工場で働くといふことで、一工場を  
人位ですが、そういう方面にも内取をやさうな方をあつ  
せんして仕事をしてもうたらどうかと思ひますが、なかなか  
内取というものは適當なものが見出せないわけでございます。  
それにつきましてはいろいろありまうけれども、今やところ

現在やっている程度でございまして、これから検討いたしまし  
ましてやって参りたい。かように考えます。

・二四番(志村信作君)第一点に對しましては了解下さいます  
たうでございしますが、何か、今後とも、觀光事業を進める  
上におきまして関係各所、地元民とよく打ち合ひせなかり  
まして、ごたごたうないやうに今後やっていただきたいと思ひ  
ます。第一点は了解いたしまして。

第二問は、見解の相違でございまして、私は記念碑の三  
十三年八月一日というものは記念碑に必要なことでは  
なかつたと思ひますが、意見の相違ですわ  
ら、やむを得ません。

第三点は、本当に社会福祉事業として、重大です。から  
メリヤス工場ができる。その方にも人手がいるというこ  
とが、さうなりまして、たうですけれども、それでは、十分だ

と思ひますから、もう一つお伺いすることは、参考のためですが、私は現在館山の内取と申しますれば、時計バンド、造花、或いは人形、貝細工、高血圧のバンドとか、軍手、うちわ、新聞紙を買つてきてより張りをする。或いは紙箱作り、こういうもの口んですが、市では今内取としては、具体的にどういうものか、二つ三つ市長さんがおっしゃったが、もう詳しく中説明願ひたいと思ひます。

・二九番(鈴木市蔵君)議事進行について、志村議員の中に観光課と一般市民と連絡を取らうというふうな賛成があつた場合に、各主管課長はそれに携わつておこらう。今後取りましますか。今まで取つておりますとか、はつきりや答弁願ひたいと思ひます。

・市長(木間張君)内取の種類でございますが、軍手のかがり

毛糸手袋のししゅう。貝細工。そういうものでございます。

議長(黒川佐太郎君) 二一番 江田徳太郎君 中登壇願  
います。

(二一番議員 江田徳太郎君 登壇) (拍手)

二一番(江田徳太郎君) 私は三点の質問を提出いたします。第一点、二点、三点、分けて質問いたします。

第一点といつて、市長公約として十萬都市建設を打ち出してあります。そうして諸施策の重点条件として、建設係上にあるということは、今年度の施政方針にも、まゝ述べてあります。これにつきまゝ人口増加ということと一番の問題にするものであります。これは一口に今五萬残りの人口を十萬にするということは、なかなか容易ではないと思つてあります。

市長の公約といつて、これをスローガンとしてここに市

政の充実と公約の新しい都市を作る大原因であることは当然、これは行わなければならぬというふうになするものであります。ただ増加ということは、何をもってどうして人口増加をはかるかということが聞きたいものであります。思います。

新年度の予算案の審議も議会におきまして明日から行われるのでありますが、やはり予算案と照らして合わせなければならぬということも考えるものであります。

そこで私は市長の施政方針の中にいろいろと苦勞のほどは察するものでありますが、これを分析してやりますとやはりどうもこの施政方針の中には見当らないものがあると思ふものであります。

そこで市長さんに新予算の中にこれが入っていないためにまた公約のこともあると思ひますので、新しい市長の

一大館山市の建設とはからなければならぬということに  
まゝしてこれから建設途上にありますので、お伺いしてみ  
たいと思います。

私に言わせれば人口増加というものは、先ほど申しました通  
り容易でないと思ふのは、今年度の県下の人口増加の表  
を見ますと、十一月に本県の人口は、二百十五万三千百十  
人である。一年間に八万の増であるということ、三%増と  
いうふうになっております。

戸数の面におきましても、五十六万九千三百七十四世帯  
ということ、七%の増であるというように見ております。

これは関連にございますが、やはり何でこういうふうになつてしま  
かというところで工業、船舶、習志野、柏というところがど  
でございます。

これは商業と住宅団地、工場の誘致ということ、がわがけら

いて、そうしてそれを第一の表題として進んでゐるために増加できるのだというふうに私は考えております。それであるのに新年度の予算編成におきましては、どうもそれだけだけでおろすではないかということが更におきまうたので、一応私は、この点につきまして説明をいたしたいと思いますというものであります。

たに、この市長さん、積極的な推進で人口増加をはかつてもらわなければならぬというのでございますので、この点を一言申し上げて賛同の第一点といたします。

第二の賛同といつて、私はいつも本市におきまして、工場誘致であり商業であり、先ほどもおやス工場がくるというふうなことを申し上げておりますが、こういうことにつきましても土地の面でいつも難関にぶつかりまして、大企業や誘致は本市におきましてはなかなか困難であります。

でありますので、百人程度の小企業の誘致をしなければならぬというときになりまして、いつでも土地、その他条件がふさわしくないということでも、工場はいつまでたってもあまり進まない。そこで私はどうしても解決するものは、ここで半民半官の企業会社、そういう投資的企業を市におきまして立てまして、そうして大企業会社と呼びよせるためにある種の手算をきいて、ここにこういう会社を作りまして、工場誘致、開発、土地開発というようなことを行なってもらいたいと思うものであります。

新聞二月五日付で早川自治相談の地域開発事業債と分譲宅地造成に推進したいというふうな話が出ておりますが、これは国におきまして打ち出しておることだが、市がなぜそれを行わないのかということをお願いしたいと思います。土地造成には、政府も力を入れて強く出ているときに、本市

としては、こゝが取りやておらない。この点につきまゝしてなぜ、工場誘致、定地造成というふうなものを考えたいか、予算の面もございしますが、そこで、いろいろ事業債を起こして、そろそろ十分なる資本を導入して、こゝを市の発展策としてぜひとも、公共事業会社を作ってそろそろして、いまいう市長さんの第一歩をこゝから打ち出す機会までございします。ぜひこの点を考慮されまして、私共賛同にお答えを願いたいと思うものでございします。

第三に新年度の住宅問題でございします。

今年度の政府が重点施策として住宅問題をとり上げておるということは、新聞紙上、またいろいろの面で承知のことと思いますが、政府におきまゝでは、×年間計画で七百八十万戸の新築を要する。こゝうち、三百万戸は政府が建設するのだというふうにはつきりと申して建設をする。

いうことになっております。この計画も、実際におきまうては、なかなか問題であると思ひますが、こういうときにおきまうて、今国会でも騒がれておりまうて、本市においては、先般の継続事業としまうては、五カ年間で百戸建てております。市営住宅の二十戸でございます。

今年度は、二十三戸建設が見込まれておるといふ予算面でございます。今、市営住宅でございますが、九坪五合の住宅は、本当に皆さん方がいい住宅とは思ひません。こういう住宅は今後、餘り市の発展のためにはふさわしくないといふことも私は考へております。

なぜならば、今どうとこういふまうてもアパート住宅で五、六、七階建、また三階、一階建にしまうても、五、六坪の住宅が各市中では、行なわれております。そこにおきまうて、京葉工業地帯の発展とともに、木更津には八幡製鉄が

きておる。ここから一時間足らずで運行できると思っています。  
 そういふところにおきまして市営住宅の坪五合位のもうではどうも市として住宅に対してはうとんとおさうではないが、人口増加をはかるについて住宅がなければ、宅地がなければ人口増加はできないのではないか。こういうふうには私は思っています。

また今回の施政方針の中に今市営住宅外に不燃化住宅の建設を具体的検討中であるというふうに出ています。とにかく市街地におきましても、道路の関係、溝の関係においても本市はふさわしくないと感ずるものであります。そこで私は市長さん、第一懸案としておる十万都市建設ということから、今こういうことが、第一番に上げらるゝのではないかと思っています。

本市におきましても産業面、観光面、またいろいろとあり

たいことは、随分あります。が、なかなかやらないということは、市に予算がないということになります。が、今、住宅問題につきましても、土地問題につきましても、政府が今回、年計画、五年計画というふうなことでやつておきますので、これを大いに取り入れて、そうして実行してもらいたいということで、報告質問をお願いするものであります。や答弁をお願いしたいと思ひます。(拍手)

議長(黒川佐太郎君) 午前の会議はこゝにて休憩いたします。

午後 零時 一分	休憩
午後 一時 七分	再開

議長(黒川佐太郎君) 午後、出席議員数二十五名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

二番議員の質問に対する市長の答弁を求めます。

(市長本間譲君登壇)

市長(本間譲君)江田議員さんに対する答弁をいたしたいと思います。第一点から申し上げます。

館山市の人口は国勢調査の都度減少の状況にあります。一て、これは館山市が他地域に比べて低所得地域であること、就取の機会が地域ではなかなか見られない。このことが主要原因であろうと私は考えております。

私が市長就任に当って十万都市の建設を標榜いたし、またこれは、この人口減少の原因を少なくするため、地元産業の振興と新規企業への誘致、観光資源の開発、これには京葉工業地帯の南下に伴う通勤圏として、団地、アパートの誘致等を計画し、積極的に取り上げていくという意味であります。

ーカー、それはいたしまーても市の将来の発展の方向は十分検討すべき問題と考え、現在市承知の通り市勢総合調査を実施しております。

第二について申し上げます。企業誘致は、今後市勢振興をはかっていく上にもきわめて重要と想います。それに国有地はもうろんですが、私有地等を含めて何なりとも用地を確保することが緊急であることは申すまでもありません。

ーカー一言に企業誘致と申しまーても、当市に適した業種、規模、位置、立地条件、や季節、そういうものとの関連性さらにプラス面とは逆に公害問題、その他マイナス面も考慮せなければならぬので、現在市長会に依頼中のいわゆる総合調査がまともな次第、それから参考を検討必要とあらば、来年度を待たず、用地確保の考えから民間法人の開発協会或いは公社等であ

る組織を当市にも設定して積極的に用地確保について  
は企業誘致の條件をほかりたいと考えまゝて目下校  
討中でございます。

実は県におきまゝて開発公社があり、県下一円にわたつて  
土地の取得を行つておりますので、先般県の公社の意向  
等打診いたしましたところ、市町村の計画が適正で地  
域振興上必要と認めれば相談に応じてほしいということ  
で、なうで、いずれの方針が当市にとって有利であるか、  
考慮中であります。いづれにしても、市の企業誘致  
業種としては、今後できるだけ力を注いでいきたいと存する  
次第でございます。

最近、進出がきまつた東京メリヤス工場も当市が力を注いで  
参つた一つで現われておりますが、その他現在、三用地買収  
斡旋中のものでございまして、こゝらうのことにつきましても

皆さん方、中協力をお願いいたします。次方でございます。

三番目にお答えいたします。

住宅の需要は人口の増加に伴って増大することは申すまでもありませんが、最近の傾向は特に社会保障制度の近代化によって親子が一緒に住む古い慣習がすたれ、世帯が分割しつつあることにも大きな理由となっており、特に最近では地価を含めた建築費の上昇がいつそう一般住宅建設を阻害してある現状で幾ら建てても追いつけないのが現状でありまして、これが緊急性を重視して三十四年より毎年二十戸ずつ市営住宅の建設に着手して参り、今年度も二十戸の建設を予定し、予算の關係をお願いするわけでございます。

当市といしましては本年二十戸建築した市営住宅に七十名が入居希望者があり、六万人口から見れば、現在

のところ、住宅不足が、都市でも急迫しているとは考えられません。しかし、希望者にたゞ切れないので引き続き、今後、建築を考えておる中であります。が、現状は、財政事情もありますので、市営としては、この程度がせいっぱいでありませう。しかし、企業誘致、観光企業面から一般住宅、アパートや建築等にも、土地があつせん。その他、市としてお手伝いできる面は、なほよく援助を惜しまない考えてでございます。

特に今後、京葉工業地帯、南下に伴う通勤圏としての住宅、団地的なもの、を今後、問題として研究していきたいと考えておる次第でございます。以上、（拍手）

ニ番（江田徳太郎君）市長さんから、ただ今、私の質問に対して、市答弁をお願いしまして、大体了とすものですが、でございますが、市といひまして、一番にもう一つお伺いし

たいことは、人口増加はどうなったか。また住宅数も今年度はどう位ふえておるかということをお伺いしたいと思います。これに伴いまして、第三の質問で土地造成によりまして国有地の面積といえますか。どう位、どういうふうにあるかということも伺つてみたいと思います。それと調査されておるか。

それから三点の住宅問題でございますが、やはり今申し上げましたように工業誘致や団地とかを作るのは市人口増加に伴うものであると思つてあります。これは呼びよせる、それだけの態勢を整えておいていただきたいと思ひます。

そのために国有地がどう位ありまして、そうして市の轉換にどうしようできる態勢を整えることと、また直接に住宅は五年間の今の宮城、大賀、笠石で終りと思ひますが、今後どこにどういうふうに持つていくかお伺いしたい。

三点をお願いするものであります。

・市長（本間 義君）お答えいたします。人口が増加しているわけとかという市費向でございますが、人口は横ばいの状態でございます。それから国有地、坪数、向題でございますが、これはあとで調べて申し上げます。

住宅向題でございますが、来年度もお話のように伺っておりますが、やはり引き続いてやって参りたいと思います。・二番（江田 徳太郎君）今申さるモード人口は横ばいの状態だと市説明がございモード。

それでは市長、二年目でありますので、これは今仕方がないと感じるものであります。どうしても、四十年、四十二年、二年というように倍加されていくことを私は望みまして、今、説明に尽します。

それから、住宅数がどういうふうになつたかという説明があり

ませんでしたが、この点を一つと、それから、国有地のどの程度  
あるか、これははっきりした数字でなくても、大体で結構です  
ございます。それから、三つの市営住宅は、今市長さんの方  
で、さきまゝのことです。当然住宅は人口増になります。今、市  
営住宅は最小のものであつて、今後、住宅はもう一つ、心を  
入れ、えて、さうして、他市からでも、工業地帯の閑餘からでも  
呼べるような住宅建設に、やりかえて、いただきたい。この点は、そ  
ういう線にいくというふうな説明がございまして、了解いた  
します。で、二点をお願いしたいと思ひます。

。市長（本間 義君）国有地、今のお話、これは調査して有効  
に働くふうになりたいと思ひます。

住宅ということですが、これは、やはり土地の幹線ま  
して、アパートの建設、そういうふうな方向に、進みたいと思  
ひます。

・二番（江田徳太郎君）大体市長さんや説明で了といいた  
したいと思ひます。が、なにより本市の建設事業といひし  
まゝでは、三大事業をいひます。考えをもちまゝして人口増  
加といふことが考えらるうであります。で、これを執行に  
移してもらひたい。こう考えます。で、今後よろしくや、検討  
願ひたいと思ひます。

・議長（黒川佐太郎君）一〇番議員、江田実君や登壇願ひ  
ます。

（一〇番議員、江田実君登壇）

・一〇番議員（江田実君）三十九年度予算について、総合的な質  
問を申し上げたいと思ひます。

新年度の予算は、本市市長自身、施政方針に基  
きまゝで編成されたものと思ひます。産業、観光、並ぶ  
に教育の三点が根幹になってゐるわけでございます。

いども、市長が就任に際しまして市民に公約されたところの諸施策が強力にかつ、効果的に推進していかねばならぬと、その方針といたうことが施政方針、並びに予算案の説明にあつたわけでございます。

私はこれを聞いて、非常に大きな期待を持ったわけでございします。しかし本年度の予算説明を承かり、これをよく分析して見ますと、大きな期待を持った施政方針並びに予算につきまして非常に大きな疑問を持つとともに、その期待を一拳に消しとばさうて、さうなわけでございします。すなわち、今年度当初予算は、六億五千六百三十万円でございします。

前年と比べて、一七%すなわち九千五百六十万円の増加を見ております。しかしながら、その内容を見ますと、市税特にこれは個人が税負担でございしますけれども、

ども、こゝが千百二十万円の増額になっております。

さらに都市計画税の改定によるところの増額部がこゝが五百四十九万円の増額になっております。

さらに教育使用料ということでもって、館山高校並びに市内の公立幼稚園の授業料が三百二十九万円、前年度より増額しておるわけでございます。

さらに衛生手数料即ちゴミの回収手数料が百六十九万円増額したば、消費税が九百三万円の増額、合計三十三万一千円、市民の税金負担の増額によつて収入源がなまなまおるといふことでございします。それとともに国並びに県の支出金が六千六百十四万円に達し、さらに市債といふしまゝで千二百万円、統計一億八百八十五万円が収入の部によつて昨年度よりふえておるわけでございます。

こゝに又、まゝで法人税におきまして百七十一万円の減税

がなされております。

固定資産税におきましては、百三十三万円、さらに電気ガス税  
におきましては、八百十一万円が減税されております。さ  
らに支出面を見て驚きますことは、全般的にわたると  
ころ、人件費の増大でございます。総務費並びに土木費  
が大幅にふよ上つております。その差額は、三千  
六百十万円でございます。それに法律に定められたところ  
の厚生扶助費が千百七十八万円増額し、さらに、農  
業構造改善事業といたしまして三千二百万円と、事務改  
善に対しまして九百六十四万円、校舍建設費が二千五百二  
十三万円、総計一億一千四百七十三万円が昨年より支  
出の面において増額されております。このことは  
言いかえれば、市民の税金と教育費と衛生費の収入に  
よって、即ち市民の直接的犠牲の上に立つて予算が規

模が高められておるといふことでございます。そうしてさらに  
固定資産税、並びに法人税が逆に減つておるといふことは、鶴  
山市の産業が衰微しているといふことであり、さらに法人税  
が減少しているといふことは、鶴山市の近代化が遅れていると  
いふことにあると思つております。

他市、例を見ましても、固定資産税が減少し、市民の税金  
が深まり、国、県の補助金が予算の大半を占めるようにな  
つても、決して繁栄している都市は一つもございません。

鶴山市はこの例外にもつけないでございします。さらに三月

十二日、総理府から発表されたところ、三十八年度、各  
調査を見ますと、都市勤労者の世帯収入は月平  
均五万六千七百四十五円となつております。世帯主の年  
収入は、定期的収入で三万七千二百一十一円となり、最  
近四年間におきますところの所得の伸張率は、お

おむね一々%を越えておるうでございます。

このことをさらに分析して見ますと、三月十日に池田内閣  
総理大臣が閣議において了承されたところの国民  
生活白書を見ますると国民の所得水準の上昇は三  
四年から三十七年にかけて実質個人所得は、三〇%を  
越える大幅なものになっておるうでございます。そのことから  
見ましても、現在の市内におきますところの勤労者  
賃金並びに市役所内に働いておりますところの従業  
員の賃金がいかに安いことかということが明白なうでござい  
ます。そういう市役所の従業員の給料並びに市内に働く  
従業員の給料が世間並みになるには、相当の増額を  
していかねければならないことは、この白書を見ても明確な  
うででございます。従いまして今年予算の中において  
人件費の割合が増大していることにすぎまして、他は具

体的なところの諸施策に使われるところの予算が圧縮されているということは、これから先、来年も再来年もさらに深まっていくものと私は思うのであります。従って年々市民の生活は高まります。すべて、面において市民の生活が高まれば、人件費が増大するものは当然でございます。人件費が増大いたさなければ市民の生活が増大しないのは当然の理屈でございます。そういう中におきまして、産業並びに観光、商業、こういう生産が向上を以ていかないならば、館山市の予算に占めるところの個人税収入の負担による予算規模の増大をいかなければならぬ。なるものは当然でございます。従いまして、私はこういう状態にあるところの本年度予算は非常に憂えるものであり、ある面では、館山市政に對して危険信号を打っておるものでは、ないかと思われるのでございます。

この点におきまして市長さんは、いかにお考えになるのか。お  
答えをお願いしたいのでございます。さらに本年度予  
算を見ますると農業構造改善事業、さらには、観光  
事業、道路橋梁等の土木事業、~~改~~修維持、市営  
住宅の建設、学校、校舎設立、さらには消防の整備事  
業とすべての事業が国の補助金にによるものか、または、  
起債と寄付金と主体にいたる事業であるということござ  
います。その中でも、事務改善や商工会議所の助成  
焼却炉の土地買収、学校、需用費の増大などは明  
かるい面が予算でございます。しかしながら、以上のごと  
く見て参りますと、どこに観光、産業、教育の充実いた  
すか。市の構想があるのか、見受けらぬというのでござい  
ます。この点については、いかにお考えになるのか。第二  
点として、伺いたいのでございます。

市長は十萬都市の構想と都市診断の結果に待つ  
といつておられますが、市長自身にはその構想はあるの  
かないや。教えていただきたいと思うのでございます。

さらに三月中に都市診断が完成するというところでござい  
ますけれども、実際に都市診断が完成しても、その内  
容が具体的に消化できるかどうか、非常に疑問な  
のでございますけれども、その点については、いかに考え  
に当たるか、お伺いいたいたいでございます。

予算の面につきましては、以上四点についてお伺いをすま  
わけでございます。

次に教育問題についてお伺いいたします。

まず、老朽校舎が、中学校入全体が三割、一もあると  
いうことは、一ば一ば教育長の答弁の中に出てきてありま  
す。中でも房南中学校では、先ほどの議会において

請願決議をいかにもかかわらず、なぜ本年年度の予算の中  
にその事業費が如えられていないんですか。その点  
についてまずお伺いしたいと思います。

それとともに市内の学校で危険校舎として指定され、さら  
に改修すれば、国や県が補助金が多額にふるとい  
うものがあると同じであります。それは、真実でござい  
ます。また本年度改築する神戸小学校の寄付金が二百二十万  
円あり、さらに四中の体育館の建設に対しては、四百五十  
万円が寄付金があったのでございます。しかしながら、一中  
の技術教室の増築に対する寄付金がないのでござい  
ますけれども、この点についてはどうお考えになっておる  
のでございますか。さらに、神戸小と四中の寄付金の  
額を見ますると、寄付金の集まったところから、老朽校舎  
の改修をいっているのではないかと思われ、傾向が見受け

らよろうであります。が、こゝうな配はないのか、お伺いしたいと思つてございます。

次に館山高校については、<sup>県立</sup>最近移管の整備、拡充を毎

年続けてきております。このことは、大へん結構なことだと思

います。カーながら、昨年について本年度も入学希望

者が百名近く不合格になつてゐるという事実が現われて

ゐるではございませんか。なぜ、学校施設の拡充、教整備

をすることにも定員増加によるところの高等学校校全員

入学の方針を打ち立てらなないのか。この点について、私は

お伺いしたいのでございます。

それとともに、北条小学校の幼稚園におきましても、今年

も定員をオーバーした希望者があり、来年もこのま

でありますれば、必ずオーバーしていきますことは、明白な

事実でございます。

即ち本年北条小學校に入るところの生徒は、四百人に達しております。今年の戸籍を見ますれば、来年北条小學校をはいめほかの幼稚園には、何人位う生徒が入るかということについては推定できませんでございしますけれども、現在う状態におきましては、来年度も今年同様う現象が出てくることは、当然でございしますけれども、この点について、當子算の中、題きいておらぬいうは、どうううな理由であるか、お伺いいたいでございします。

次に農業構造改善事業についてお伺いいたいと、思っております。

この問題については、昨年六月二十四日の定例議会で質問いたしました、先般成田地区のパイロット地区が失敗をいたしております。そうして、そつ又柳井は非常に大きなものになっておるうでございします、このとき

当たりまして、鑑野地区もその経験にちなんで、次のこと  
が、どのように考えられておるか、その点について伺い  
たいのでございます。一つは、農業構造改善事

業の内容とその趣旨が十分に農業構造改善  
事業に携わるところの農民に伝えられておるかという  
ことでございます。特に区画整理参加するところの百  
三十五戸の農家の人たちの耕地の大小をどうよう  
に解決していただく、その点について伺いたいと思ひ  
ます。

第二に構造改善事業には、若い青年が出させざに  
いつてしまつてあまり参加していないということが、伺われ  
ております。そこで、たいがいの農業構造改善の推進  
主体になつてゐるのか、教えていただきたいのでござい  
ます。すなわち、どのような年令層の人が推進されておるか、

五十を過ぎた世帯主なり。次代をになうところの青年  
なり。その点について明確に教えていただきたいと思ひます。  
第三に構造改善事業は、池田総理のブレーンと言わ  
れておりますところの池本三喜雄博士の構想によりま  
して出発いたしております。

池本構想の中へは農業技術の近代化とそれ余剰勞  
働の転業化をわらうたところにわらいがでございます。そこで  
館野地区の百三十五戸の農家から事業の進展と  
もに二人ずつの余剰労働者が出たといひましても、こ  
う三百人に達する農民の方たちをどこに就取させて収  
入を得らるゝかということについてはつきりしておる。お  
伺いしたいのでございます。また池本構想は農地整  
備と畜産等を結合したところにその主眼を置いてお  
る。でございまするが、館野地区におきましては、池本構

想によつて出発したところ、北田町の農業政策の一環として、実施するところの農業構造の莫大の補助金をもらった補助事業でありながら、なぜ、畜産事業をこの中に入していいかということについて明解なる答弁をいただきたいと思ひます。以上をもちまして賛向を打ち切りたいと思ひます。

(市長 本間 議 君 登壇)

。市長(本間 議 君) 北田 議員 之より賛向に対して、まゝて答弁を申し上げます。

財政的危う機と都市の診断についてということでごさいます。歳入において全面的に市民の犠牲において増益を示し、国庫支出金の増大は他力依存で不健全であり、歳出において建設事業の増は、物価の値上りによる増であり、基本的項目は定着し、福祉予算

の減少、産業の停滞は、財政危機であるとの見解の  
ようでございますが、市民の犠牲という言葉がどのような  
内容を持っていますか、判明しませんが、市民の直接的関係す  
る部所は、市税、使用料、寄付金等でありますが、これら  
については、法律系創り規定によるものとも低いもので  
あり、寄付金については、現段階においては、市が財政か  
らやむを得ないうではないかと考えておりますので、必ずず  
しも犠牲とは考えられないと思っております。

歳出については、今回自治法の改正に伴う予算課目  
のふりかえ、或いは事業の完成、或いはまた本年度予算  
については、食料費、借料補助金等消費的の面にお  
いて大幅な削減をいたしておりますので、随所に昨年  
度に比べて減は見られますが、実質的な事業効果を  
持つものについては、意を用いて参ったつもりでございます。

また、現在、地方自治体の事業はほとんどどうも、国庫の支出、起債がついており、又面、それを行なうことが財政の乏しい本市にとっては少ない予算で事業の執行が、できることにもなるのでございます。不健全といえども、方によれば、いえないことはないですが、必ずしもそのようなことは考えておりません。また、都市診断については、月末報告を得ることになっておりますが、市指摘の点については、私の方からも希望してあります。で、その打開策が示されるものと考えております。さらに、都市診断が三月にでき上ると思いますが、これに検討を加えまして、四十年、年度から順次取り上げて参りたいと考えておるわけでございます。

なお、また、十萬都市建設の理想は幾度も申し上げましたように、これも一年か二年でできるとは考えておりません。

観光施設の充実とか、企業誘致とか、それから京葉工業地帯や南下に伴う田地の誘致、いろいろのことによつて行なおうと考えておる次才でございます。

それから教育問題について中承知のように危険校舎は市内には多いでございますが、これは教育委員会におきまして、老朽校舎の逐次解消に努めておるわけでございます。

それから房南校の予算については、現在すぐにやるといふ予算はついておりません。これは危険校舎の度合によりまして逐次やって参る考えでございます。

館山高校及び幼稚園の生徒の志願者が非常に多くなつて参つておるわけでございます。こゝろ処置につきましても教育委員会とともに検討してなるべく志望者の入学できるように善処したいと存じます。

それから最後の農業構造改善についてでございますが、参加者については現在まで十数回にわたる会議を重ねていろいろ指導して参つたでございます。特に基盤盤関係者の文書によつて承諾を得ておりますので、思は十分徹底してゐると思ひます。

第二の事業の推進の主体でございますが、これは市であります。施行自体は、安房中央土地改良区でございます。なお、これを推進していく方々は、受益世帯の世帯主であるが特に青壮年層を主体に進んでいきたいと考えてゐる次第でございます。

なおまた、余剰労力の出た場合には、畜産とか、果樹の栽培とかそういう方面に指導して参りたいと考えております。以上でございます。

。教育長（工藤和平君）先ほど市質問の第二点の教育関係に

ついて補てん的に説明いたしたいと思います。

房南中の問題でございす。房南中あう二階建の建物全部が危険校舎ではございせん。あの中う一角だけが危険校舎の指定を受けてあります。そいが相当危険ではございすうでいわゆる私どもう長期計画の中に一応織り込んでございすすが、たまたまあう建物か旧兵舎であつて、学舎としてはふまわくくない。いわゆる不適格校舎であるという認定が下さいまして、こいのは去る二月十二日に本更津市におきまして、県主催の事務局員の研修がございまして、最近になつて国、県の方針として不適格校舎にも危険校舎と同じようや、三分の一の国庫補助を出す見込みであるという話がありまして、たうで、こいらもからんで、こう問題を近くいわゆる長期計画の手なおしによつて検討したい。こういう考えでございす。

第二点、学校寄付金の問題でございますが、神戸小学校に寄付金がないのはどういうわけだ。これは普通教室でございますので、公費をもってやるべきもので、こういう見解でございます。また従来そういう方をしておったわけでございす。なお田中はやはり承知するように、これは追加予算のときに説明したわけでございす。が、屋内体育館として二百坪、相当理想的なものを建てるといって、補助対象のワケを大幅にはみ出します。で、地区民が非常な中理解とやり支援を得て、いわゆる寄付行為を願いたいわけでございます。

一中もないという方は同様でございます。これは室が非常に暗くて、ルクス低いというので、毎年、これを改築する懸案になっておったのでございすけれども、三十九年度に初めてやるようにむしろ輝きに満ちるような感じがいちま

すが、普通教室でございます。寄付をいたしません。  
館山高校の問題でございます。今年、入学志願者が三  
百八十五名、定員に対して五百三十五名、入学率は二四  
ころいう高率でございます。これは中学校、進学指導が  
何と申しますか、県立側に有利なように県立学校を愛  
護する子供に有利なように志願者をばらばらというように  
私どもいいたいのであります。そういう端々に申しますと、  
進学指導、そういう寄せが我が館山高校に寄せられた。  
こういうふうに解釈しております。

学校におきましては、合格者は大体県立の学校よりも、  
教室も建て方もメートル式でございます。狭いんですが、五十  
六名平均取っております。これは非常に無理がござい  
ますけれども、市立の学校であるという我々の助言、要望  
と校長が非常に最大限に勘案いたしまして、できるだけ

拾ってやろうという親にから他の高等学校もおそらく五十  
五名が限度だと思ひますが、五十六名採用してゐるような  
現状でございます。なお、全部入らう、こういう必要望で  
ございすけれども、これは高等学校教育は義務教育で  
はございせん。従ひまして現在う学校制度、学制改革  
をするうが先決問題であらうかと思ひます。なおまた  
これをやりすについて受け入れ側の先生の問題もござい  
ます。それから施設に非常な予算上の無理がある  
ということも考えらるわけでございます。

さらにもっとも大きな教育的な問題といひまゝては、  
勞力低下の恐れがあるわけでございます。

これは片承認と思ひますが、先年高知県で金員を入  
れた例がございす。そういったしますと、高校う一年生  
う大部分が分教がでない。そういうありままでまたは

中学校より五年であるんだ。こういうふうな世の批評を受け  
たのであります。従いまして私立の学校が皮肉にも試  
験地獄の様相を消したということでございます。

毎年少子供たちはおのの能力が偉いますので、それらに充  
じられた教育を受けられるのが、真の子供の幸福であらうかと思  
うわけでございます。

最後に幼稚園の費用が当初予算に組んでないというこ  
とでございますが、北条幼稚園につきましても話はよく  
非常に心配がござえます。一昨年現在五才児が二百  
九名、四才児が二百十名、こゝ四才児がそろそろおそら  
来年度五才児になって入ってくるわけですから、子供の数  
は、おむね横ばいというふうに増減定まっていますので、来年度  
の数は、今年度と大同小異というふうにふんであります。

ところで、今年度におきまして、取員室を保育室に充当

いたしまして、どうやらこれで急場しのぎであり、すけれども、  
全員吸収可能、こういう見込みであり、すので、来年度は、  
まず、全員入り得るだろう。こういう見込みを五ててお  
ります。予算より計上あり、せんうは、先ほど、倍加予算  
で九万円計上いたしまして、改修に充当いたわけござい  
ます。

一〇番(辻田実君) それでは、全般的な予算より点について再  
度お伺いいたわけです。

先ほど市長さんの答弁でございしますと、直接市民に税  
負担を付けておらないということございしますけれども、先ほ  
ど私が数字を並べたように、都市計画税だとか、この  
面が年々増加していくことについて、市財政をまわらな  
い、ということについては、市民の負担には、かわりがないだ  
ろう、という見解を立てておりまして、私が申しましたこと

は、固定資産税とか、さらには、法人税というものは、人間ではござい  
ませんで、財産であり、生産手段である。こういうものから税  
金が上がっていかねば、私は、人間から取る税金が上回わそ  
いふ傾向にあるということでございますので、そういう面  
について、いつておるわけでございまして、その面については、市長は  
固定資産税、法人税は減少、定着化してあるというこ  
とについて、危機感を感じざるうか、感じないのかという点につい  
て伺いたい。そういう面に立って、十万都市の構想の中に  
おいて、多少、農林水産費やさらに厚生費、そういうもの  
について、定着化はやむを得ないというふうなことをいつておる  
わけでございますけれども、一か一ながら、私は、定着化する  
場合には、農業なり水産なり、さらに工業の発展という  
ものが前提になる具体的な事業の歯車が出た中に  
おいて、一年なり二年なり暫定的に定着しても、やむを

得ないということはあり得るだろうと思ひますけれども、先ほどの答弁では、そういうような傾向が見られませんか。今後、場合も私が予算の支出面を検討し、またところでは、事業面としては、農業構造の改善と、商工会議所の助成、国定公園その他、果ては事業の支援、その程度が、産業的な事業であつて、その他に見られない中において、私は、固定資産税や法人税が減つてゐる中で、人件費が増える形の中において、農業とか、漁業とか、工業に対して、定着化してゐることは非常に危険ではないか、そういうような警報が都市診断の中に打明を講じてもらふように連絡を取らうか、という点について、お伺ひたいわけでございます。すけれども、その点については、都市診断の中でも、つて、あらゆるように都市計画委員会の方と連絡を取つておるのか、その点、二点としてお伺ひたいと思ひます。

三つ目には、私は今年、予算もそうでございますけれども、先ほど申しましたように国、経済白書さらには生活白書、そういうものを見ますと、明らかな上昇の一途をたどっているということを申ししておりますが、数字的には明らかなでございます。現在の市の収支、並びに市内の従業員、賃金というものは、非常に低いわけでございまして、これがやはり、来年度、再来年、上ることは、当然だと思っております。

だいぶ昔になりますけれども、奈良朝時代に仁徳天皇が奈良の町から煙が出ていなかったでございまして、納税のため、越せないということで、それでは善処しようということで、つたう来年度にわたるあつちつちかり、煙が出て来た。

自分たちが町の生活が豊かになったと喜んだと言われているけれども、この点につきましては、一九三三年にありますニューディール政策、市民の生活を豊かにするという

ことは、日本の所得の向上にあり、商工業の発展に結びつくだろう。そういう面が考えらるるわけでございます。で、そういう面について私は来年度の予算について、この人件費の面については、どういうふうに考えておるか、簡単にまずお伺いしたいと思います。時間が許しますれば、その後において教育問題、農業問題についてお伺いしたいと思っておりますが、まず、三点についてお伺いしたいと思っております。

・市長（本間譲君） 限りある予算の範囲におきましては、一部定着化はまめがよいと考えます。一、カーナバラなまべくその点については、善処いたしたいと思っております。人件費の面ですが、これは時代の進展とともに、給与の面は、現在事務改善をやっております。この事務改善のため、現在考えておることは、現在の人員から見て四、五十名位、人員が節減できるというふうに考えておるわけで

でございます。

・助役(小出武男君) 辻田議員の第一点でございますが、年々固定資産税、その他の税金がふえていくというふうな点、これはやはり、新增が市としては、願いでございまして、税率は、ほとんど変化がないわけでございます。そこで年々増加する一方、仕事もふえて参りますが、その仕事のふえるだけ税金で間に合うかということではございませんで、そこが、調法な交付税という制度がございまして、その差額は政府が是正していくという今う方式を取っておりますので、全体的にふえますが、それに准いつくように税金を取っていけという裏づけはないわけでございます。この点は、答弁するまでもなくおわかりだろうと思いますが、そういう心配はまず、ないと思います。

・一番(辻田実君) 時間もございませんので、この面については、

予算審議の中において各項目別に十分論議の余地を残してこの面は一応打ち切りたいと思います。

教育問題、農業問題について一、二、どうしても、再質問しなければならぬ点がございますので、そちらに移りたいと思います。

教育問題につきましては、教育長の答弁でございますと来年度より北条幼稚園の入學問題については大丈夫だという太鼓判を押さるまいなうで、教育長を信じてこの点については了解いたしました。

四中の寄付金でもって実際に館野九重地区の一世代当りの平均の寄付金が五千円前後になっておるといふ事実でございます。

一方においては、このような講堂を建てるために五千円、六千円と寄付金を取るわけはならない。他方においては、そういう

北条とか、館山という場合に人数、割合、その他から非常に寄附金というものが低額でいい。こういうような状態がある。先ほども申し上げましたように、校舎、改修に当りまして、その地域によつて一世帯当り五千円もする場合もあるし、四百円、三百円で済む場合もある。これは本年度においてものはつきりしておる。

普通教室の場合、特殊教室、さらに体育館という違いがあつたにしろ、同じ教育の中にあつて、必要なものであるわけでございますから、館野九重におきましますところの五千円前後の負担についてどう考えるか、さらにほかの学校におきましますところの軽減の面、こういう面は今後、どうしていくかということについて明確にしてお伺いしたいと思います。

それから農業問題について一つでございますけれども、

収益を上げるために兼業ということが当然予想され  
ますけれども、この面について私は今、市長さんの答弁  
ですと、余剰労力は、そのまますぐ園芸とか、畜産に  
振り向けるということの中で解消されますけれども、私  
はもう少し、農業構造と改善事業施行規則、農  
業基本法と読んでいただきますれば、明らかに農業  
労働者の三〇％前後を他、産業に出すということと  
目的にいた改善であつて、それが無視されて、農業部内  
内、中に流用ということでは、言われておりますけれども  
転業、企業誘致ということについては、全然考えていな  
いのか、この二点についてお伺いする次第でございます。

。教育長（工藤和子君）お答えいたします。学校建築は教  
育の機会均等の立場から、計画的に例へば、普通教室  
優先、一か所のちに特別教室、或いは屋内体育館と

いふような順序をもつて年次計画によつて定めてその整備に手を尽くしてきたつもりでございます。

従いまして普通教室が優先とカリましたので、屋内体育館のような場合にカリますと、自然に地元の寄付に依存せざるを得ない実情でございます。

一こうして、習慣的に総工費の二分の一補助があつた場合に国庫補助を除いた二分の一ということにカリましたために、その当時、経済規模によつておらずから、地元の寄付金も額に相違があつたわけでございます。

四中全会につきましても、私どもはなはだ申し分けないという感じを持っておりまして、事前に地元の代表の方々でございまして、十分な話し合いをしまして、ご理解を得たつもりでございます。

地獄法を改正の趣旨から申しましても、地元負担軽減の方途

を講ずることは、当然、我々の義務でございます。ただ、財政事情というものが大きな壁でございますけれども、二、三が逐次例えば、渠五秘書といったような問題にからんで根本的に検討したい。こういう考え方でございます。

・市長（本間 義君）余剩労力につきましても、ただいま申し上げましたように大型化された畜産の振興とか、或いは市街地や大型化された産業の方に振り向けるということや、そういうことです。

企業誘致ということもよそでは考えておるようですが、そういう面まではまだ考えておりません。

・市（辻田 実君）今、二点につきましても、まだ問題が残りますけれども、時間もありませんので、最後に一つだけ伺っておきます。

先ほど、答弁の中に事務改善によって、四、五十名の人員

が余るやうで、こゝ面について考慮するということも簡単に  
いわけまゝにわけやうでも、事務改善のうちには、首を切る行  
政整理とすると、いうことどうか。そうでないうか。はつきりさ  
していただきたいと思ひます。

・市長（本間 義 君）それは現在、定員の人、首を切りません。  
給費がありますけれども、それはそういたしません。ほかの方  
面、市庁舎面に向けます。

・議長（黒川 佐太郎 君）暫時休憩いたします。

午後 二時十五分 休憩

午後 二時三十分 再開

・議長（黒川 佐太郎 君）休憩前に引き続き会議を開きます。

・一番議員 石井 正 君 市登壇願ひます。

(二番議員 石井正君登壇)

(拍手)

〇一番(石井正君) 重要問題なりであえて通告質問でい  
たします。

第一点、市内小、中学校、教職員、日、宿直の問題について  
最近の直の肉題を見ますと料金が三百六十円、宿直  
は、夕方からあーた、終業まで一片の費用弁償で責任  
を負わさたり大失にでもあれば、敬告察から調査失火  
の場合、は、刑事責任まで追求さるうではたまらぬい。そ  
うでせめても、そうために大失を起こしたということで異動  
を要求さたり騒がたり一たんではたまらぬいという  
意見が盛りよつてきております。

最近ひんぱんに起こる学校の盗難事件につきましても、  
宿直が責任を肉わね他人から或いは同僚から白眼  
視さる場合が非常に多いであります。

その他小規模の学校においては、ひどいところでは一日おき二日おき、宿直や一週間おきの日直が行なわれ、校長自身が当直に参加してゐる学校さえ見られるのであります。これは基本的な人権の侵害であるところまでいわれるようになります。逆に規模の大きい学校にあっては、例えば二中、北条、館山等では、一人の宿直ではとうていその敬言備管理の万全を期するわけにはいきません。そこで昨年十月に館山市の教員を含む果下の教取員として宿日直に關する諸要求を果の人事委員会に提出をいたしました。すなわち教取員にかゝっている宿日直は不当かつ違法であるから廢止すること、また火災、盗難防止には、敬言備を置くようになお、小規模学校の宿日直は、健康をそこなう。また取務を完全に遂行することは、できないこと。これは、宿直で一晩寝ずといつたら、次の授業が非常に困難になり、それが一

日、二日おきに行なわねるうではないか。取務が完全に遂行できないということでは一切を廃止すること、というきわめて最低限の要求をただいまおいてあります。

教取買の宿日直を義務づける法律は施行法第三十二条ではいえない。その他関係法律を見ましても、見当らず法律には根拠なく不当の労働をさせる遺憾なことだと考えられております。

教取買の取務に関する法律を見ても、児童生徒の教育をつかさどるとあるが、その中に校舎施設、管理、保全という仕事まで含むということは金々ひいこととて教取買はそういう仕事のために今まで研修してきておるのではないはずである。こゝうな実情から東京都をはじめ、いくつかの地方においては、市において警備員を置いて学校を保全に努めておるが、館山市においては教員

の宿日直についていかなる考えを保持しているか。特に船形小、館山小の焼失、近頃は一中の火災未遂、これは子供が当時まだ何人か残っておったので未然に防いだが、一人の宿直ではこれも大火災になったかもしれない問題である。その他現在ひんぱんに起つてゐる盗難事件を見ても市当局はいかなる対処策を考えてゐるか。警備員を速やかに配置を要求するものであるが、お考えを教えていただきたいと思います。

次第二点、市内の学校、事務取員の問題ですが、兼務の問題について、市内の小、中学校における事務取員の配置状況を見ますと小、中学校二十校、このうち神余小、中が一校に任せております。そううち、現在八校に事務取員が配置をされてゐる。当然、他の学校も取員が他の学校にはないので、八人が他の学校の事務を兼務

を以てゐる形でその不足を補つてゐる。八人の事務取員のうち兼務なしは二中一校、兼務一人二校、六人が兼務となつてゐる。それでもまだ事務の完全がはかれないため、D・T・A費用において事務助手、或いは事務補佐という形で一名乃至二名をかかえてゐる。学校は五校以上に上る。しかも事務取員が兼務の問題として現在残つた問題が残されてゐる。

その一つは、兼務校へ出張のためにかかるところの費用が支払われていない。例えば一中の事務取員が畑を兼務してゐる。館山が那古を兼務し、北条が神奈を兼務し、船形が豊房を兼務してゐる。こうした地理的に離れたところに一週間に一回或いは月に何回か出張出張を繰り返すわけであるが、この費用を一切自弁せられてゐる。もちろんバスで通うと思つたが、その料金は自弁である。

のことである。また兼務校についても事務取員として、受け入れ態勢がない。机がない。用紙類も全部自分の担当学校の負担となっておるようである。もちろん兼務のための辞令は出ておらず、報酬もない。このような兼務の問題については、法的にどうしてもやらねばならぬという定めはない。当然本人が拒否すればできる問題であるけれども、館山市においては、教育委員会との事務取員との話し合いによりまして校長が中に入って好意的に了解を得、実施をしておるものである。であるから、もちろん辞令は現在のところ出ていない。それなのに、この兼務は、数年来行なわれているけれども、少しも改善は、されておらず、情状によつて実施している状態である。

一方兼務ということとは、なかなか大へんなことで昔から「足らわらじ」は、云々ということめざがあるが、一週間に一回

或いは月に何回兼務校にいても完全に仕事ができ  
ない。そこでその他の不備は小規模の学校に教頭がこ  
れを担当するわけであるが、小さな学校は教頭も授  
業を持っておる。教頭というは事務が取務ではな  
い。教頭本来は教育指導面の取務があるわけであ  
る。学校管理の面があるわけです。事務をいわけると  
雑事を手伝っていることは、当然学校教育に支障  
があるわけで何とんでも兼務はやめるべきであると考  
える。

参考に県下の各市の状況を見ますと、事務取置の不  
足からこれを補うために事務補佐という形、或いは  
書記、或いは事務助手という形で、鉾子においては十  
六人、野田においては十五人、千葉市においては二十人、  
松戸においては十八人、市川において二十五人、市原

においては、八人等々十八市中、半数以上がいわゆる助  
手という形式、或いは補佐という形でその対策を取っておる  
ことが調査によつてわかつてゐる。また補佐は置かないけ  
れども、十八市、今補佐を置いてゐる以外、市は補佐  
は置かないけれども、兼務をさせてゐない。ところが兼務  
をさせてゐるものは、館山市だけだ。県下において、これは、  
まことに遺憾なことで、館山市においては、三十九年度に  
おいても、事務補佐を置かず、引き続いて兼務をさせて  
いくつもりが、明解なるや答弁を願ひたいと思つて  
わけである。

なお先般一般質問で質問した際にあつた一片の答弁で  
なつて、果等との交渉事業があるならば、その過程について  
も明解にお示しをいただきたい。以上二点についてお伺い  
いたします。

(市長本間譲君登壇)

市長(本間譲君) 石井議員さん、質問に対してお答えいたします。

第一番目に取員、宿日直制度についてでございますが、学校取員は、学校施設、設備をある程度管理する責任があると思われます。これは、県の教育委員会としても、このような見解を持っております。

具体的な点につきましては、教育長から説明を願います。第二点、取員、業務についてでございますが、これはお説通り、一校一名が理想だと思っておりますが、一か一ながら、県取員として採用されておられ、詳しくいことは、教育長から中説明申し上げます。

教育長(工藤和平君) お答えいたします。第一点、教取員の宿日直制度を、夜教員の教員備員を置き、こう

いう中實向でございしますが、この問題はお話のうちに現在  
教取員組合の問題として提訴されてもおります。

しかし前から論議の中になつておることは事実でござい  
ます。ただいまの県の教育委員会の見解は統一見解  
でございしますが、教育というものは、教育の業務に必要  
なすべて、行為、従いまして学校教育をほどこすに  
絶対必要な建物、管理、或いはこよう保管ということの  
行為は当然教育の仕事の一部である。こういう見解  
でございします。従いまして、教取員はこゝに任ずるが  
当然であらう。こういう見解でございしますが、私も同様の  
見解を持っております。ただ実際問題といつては  
昼の間、ほとんど十分の休み以外に精魂を尽くして子供  
の学習指導、さらにホーム・ルームの指導、或いは校外  
の補導、或いは生活指導、こゝはほとんど席のあたたまる

ひまもない。心魂を尽くして学習指導、生活指導に当たっておる取員が、綿々ように疲れた体をもって、夜寝ないで警備をすまうことは、当然これはできません。従いまして定金な夜警書に任ずるためには、これは警備員を置くのが当然だとも考えます。そういう観点から、お話をマウに東京都、その他において警備員を設けておるわけでございますが、我々もこの問題につきまゝては、当然機会あるごとに果当局に要望をしておるわけでございます。お話によりますと、他市でもやっているから、館山市でもやらんか、こういうことでございますが、三十九年度の、人件費は、市案内のように教育費において六千六百万円というようであり、さまでございます。前年度を上回ること、九百七十六万円余でございます。こういう実情を考えますときに、実際問題としては、警備なしに夜警書に任ずることの困難性

は十分わかりますけれども、高等学校を金まゝして二十校  
の小中学校に一挙に警備員を配置することは、現段  
階では、はなはだ困難に感ずるわけでございます。なお、こ  
れに關連いたしまして小規模学校、お話でございまして、  
畑小学校におきましては、校長、教頭、それから若い教師が  
おりますが、校長は旧市内から痛つておりますが、教頭は、  
教員住宅に泊つております。

また丹という若い教員は、最近改造一まゝに日当りのいい  
室を常住の場所にしておりますので、實際問題として  
本番に泊りますけれども、いりゆる私的生活の破壊には  
ならない。こういうふうと考えております。

なお、指摘さしめたいような違法があり、不当ではないか。  
労働基準法二十三条というような問題もございまして、  
ども、これも行政官庁の見解を当てれば、違法ではない

わけでございます。それで、この町では、二十五年、度以来、許可を得てございます。それから、管理規則で命令するものは、勤務条件としてまずいかならないかという見解も組合で示しておりますけれども、これも、取務命令でございませう。勤務条件ではございませう。これが第一点。第二点、取務の兼務の問題でありますけれども、これも、お話のように、学校事務は、とくに複雑多岐にわたりまして、まことに学校事務等、多岐にわたる我々同情しております。従いまして、我々、郡市、教育長会議というものがございませうが、それとともに十九市の教育長会議、関東都市教育長会議、全国都市教育長会議、あらゆる会合がほとんど毎回もとも、重要な要望事項の一つとして取り上げられております。各学校一校に事務員必置、こういう強い決議をいたしまして、各関係方面

に陳情を続けておるわけでございますけれども、文部省はもちろんだ、それを採択いたしましても、自治省或いは大蔵省でそれが通過しないというのが実情でございます。なお、兼務校の旅費の問題もございまして、これはお話のように、校当局お互いの校長の間で了解を得、自弁ではないような手段を本市では講じておりますけれども、他市のように事務員を兼務をさせないで置かないかという市費負担でございまして、こゝまた教書備員、人件費と同様な理由によりまして、三十九年度にこれを一律に解決することとは、はなはだ困難でございます。

○一番（石井正君）今も答えを聞いたわけですが、果が指導し、実施する制度上の問題であるので市には予算がないからどうかという当然の答弁なんです。が、現実の問題をみますと、今教育長の答弁の中には、つぎと、宿日直

う問題にしても、義務の肉題にしても納得をしているわけでも支障ありということも納得してしまふであらうけれども予算がないということなんで、こういうことでいったならば、いつになつても先ほどの幼児教育の肉題と同じで予算がないでいつになつてもやらないということでは、いわゆる火が燃えて消防車がないから消せないのだといつて見ているのと同じで大きな損失が出るということも頭において三十九年度でできなければ四十年年度、いわゆる長期計画をもつてこれを善処すべく努力をしていただきたいと思つたわけで、予算にからんでくる肉題であつたので、むづかしいことはあるけれども、やはりもう少し一、二他市の例を上げましたけれども、他市の調査をして、研究をして実態をつかみ、さらに市内の教育現場をもう少し中に入り込んで調査をして、それに合つた施策を今後立てるよう要望します。

して、時間もございますので賛向を打ち切りたいと思います。  
議長（黒川佐太郎君）一五番議員 小沢恵太郎君、登壇願います。

（一五番議員 小沢恵太郎君 登壇）（拍手）

一五番（小沢恵太郎君）私は通告の分野につきまゝて細かく、中實向申し上げておきまゝだ。

従いまゝて、これを根幹といひまゝて、ごく簡便に各事項に中實向させていただきたいと思ひます。

市長さんも十萬都市建設を目標とさしまゝて、常々市政に携ゐっておいでになると思ひますが、十萬都市の根幹をなすものは十萬という数、市民である。

現状におきまゝでは六萬、市民である。この市民のくづくりについてどうする、施策をお持ちになつて、そうしてこれを具体化しておいでになるか、いろいろあると思ひま

すが、こううちう三つについてお聞きたいと思ひます。  
 人間、おぢやあとお生まつて幼児の時代、少年時代、青年  
 時代、壮年、老年と各時代があると思ひますが、特に教  
 育に大事な幼年期或いは、青少年期、この時期につ  
 いて三つに分けてお伺ひいたします。

その一つは、先ほど来一番議員からも、市議員が、ありま  
 た幼児教育がいかに重要であるかといふことで、最近非  
 常に叫ばれてきております。そのときうや答弁を伺ひ  
 まうたが、私としては決してこれで満足できないといふ点か  
 ら、重複してまことに申し分けないと思ひますが、お伺ひす  
 る次第でございます。

先ほど市長さんは、うや答弁の中で幼稚園の経費につ  
 いて一千万円の赤字だとおっしゃいまうたが、何を根拠に  
 赤字だとおっしゃるのか、私にはわからない。教育の効果は

すぐに幾らという一千万円とか、一億というような金銭の上には、私は現われないと思ひます。そういう見地から考へまゝで教育のことについて赤字だということとは失言ではないか。言葉どりをとらえて申し分けないが、ある程度のこととは、たくさん経費を出しても立派な市民ができて、それで立派な国民になつて、それが立派な市を建設していくということにおいて私は黒字になる。こう信じておるものでございます。

こういう見地からまゝで現在、幼児教育を見ますと、都市中心の幼児教育が行なわれ、偏在する。農村部はまことに、幼児教育の面については、悲しむべき状態にある。これは過去におきまして、教育施設とはちがつと目標を異にしており、すが、保育園の施設が設けられてゐる關係上、幼稚園はいらないやうなう

なお考えではないかというふうな懸念もございます。私は幼児教育は、館山市の中心からへんぴなところにかけても、これは是非設けていいただきたい。それについて今後の方針と具体策、これをまず、第一点としてお伺いしたい。

次に学校教育の面でございます。館山市の教育はある程度は進んでおると常々言われておることは聞いております。しかし、学校教育の施設の内容を見たときに先ほどもうたびたびお見がえりしましたが、老朽校舎や不適格校舎が多く、その内容、設備も不十分である。これについては是非、委員会におきまして、また市長さんと市相談の上、どこまでも根本的な抜本的なそうして計画的な対策を講じていいただきたい。そうして、その計画を明示していただきたい。

次に学校教育の実績の面におきまして、また向上を期  
んではいると思ひます。一、かゝいやが上にも向上させるた  
めには、教育人事におきまして、機会均等の教育について  
一点お伺ひたい。もちろん教育は、教育基本法において  
示されておりました。こゝが大きな目標となるのでござい  
ます。が、館山市には、館山市の部面もあつてよろしい。市長さん  
としては、館山市建設のために、市民を依るためには、教育基  
本法に示されておる教育の一般から、さらに特殊な館山市  
教育という面に何か、具体策をお持ちであるか。それをお  
伺ひするとともに、特に教育の機会均等からいつて、やけ  
り中心部と僻地なところにおいては、ある程度の格差が  
ありはしないか、これを考える一人でございします。

先ほど石井議員から勤務の問題についても、中實向  
があつたんですが、考えてみますと、校長においては、そうで

もないんですが、一般教員については、市部、学校に二十年勤務した先生もいる。ところがへんぴな小さな学校には永く先生方がいたがらない。従って一年二年、三年でかわつてゐる。また、質的と申し上げるとまことに失礼ではあるがどちらかというところには、中には有力な教員が配置される。へんぴなところには、とにかく能力的には私たちは頼りないかと思つてゐるようぢやないか、集まるといふような感下がないでもない。これは失礼な考え方もしれないが、そういう点におきまして、教育人事において根本的な機会均等な教育ができまうように配慮していただきたい。この点をお願いする次第でございます。

もう一つ先生方が質的向上のために、その根本的な具体的な方策を市としてもおたて願いたい。

次に第三点として、一番館山市におきまして人づくり

う面にもまゝして学校教育外に置かれたいところの社会教育の面になるかもしれませんが、働きながら勉強する制度は館山高校にもございますが、働きながら勉強する制度を設けてやり社会教育の面でもう少しめんどうを見てやっていたきたい。

青年団活動というふうなものもございしますが、これを見たと  
きには社会教育の予算面を見ましても、まことに貧弱である。こう考えます。こういう点から考えましてこの  
学校外で働きつつ勉強していく青年、とかく社会教育  
面でつかみにくい部面ではあると考えますが、これをが  
つちりとにぎりまして、こゝろやめんどうを見、教育を  
してやる。それを具体的に示して願いたい。

教育面につきましても以上で、次は館山市の発展のため  
には、まず、館山の産業の発展ということがまず第一である。

経済的に恵まれた市民と云ふは、館山市の経済も発展する。こういう見地から産業の発展について市長さん、重点施策の一つではございますが、第一次産業という面におきまして、農業関係につきましても、次々諸点をお伺いしたいと思っております。

堀田氏は、田中の卒業式にのぞんで見ますと、百四十一名の卒業生で農業にたづちに従事する者は一石、これもはつきりしないんですが、あとは進学就取、農村の青年が現在農業をきらいまして、次々都会へと出ていってしまう。また都会にはおいていかないが、農業には従事しないというのが現状です。そういうふうに農業が傾斜的に消滅いつめられておきますでございします。

国におかれども、この現状を考えまして、農業の伸展にはいろいろな対策が講じられて、農業を近代化し、何

らかり構造改善をしなければ、このままでは農業は滅びてしまうという点があると思います。こういう見地からいまして、館山市の農業に対する市民さんの今後の近代化事業はいかなる方針をお取りになるか。その具体的なものをさらに先日お示しになったより以上にお聞きたいと思つてございます。

農業の近代化達成のために国や県の指導機関はございます。一か一これは十分なものではございません。

館山市としてある予算をもちまして、そういう指導機関を設けていただきたい。例えば農業センターとか、或いは酪農センターとか、これはもうよそにはできております。或いは農業に従事する青年、その中心のグループに対する団体助成というような面についての方策がおありになったら、お聞かせをいただきたい。なかつたら、今

後研究していただきたい。

次の農家の経済の現状におきましては、近代化農業を行ないます上において、割合に等閑視されているが、農産物の流通性の問題でございます。

渠におきましても或いはその他うところにおいて農業の生産から収穫までの指導は本気にむつてしてはいます。が、流通面についてはあまり手を打たれていないのが現状でございます。

従いまして、豊作食欠というような事態を生ずる年がたまにあるのであります。過ぎた昭和三十八年度、野菜の如きはリヤカー、耕耘機、一台、市場まで大根を持ちていったら、二百円であつた。手間にもならないという状況でございます。かかる面から考えたときに、市におかれましては、この流通面対策を研究していただきたい。一例を上げ

ますならば、市営の農産物市場を開設していただく。  
農産物の加工場のごときも、誘致していただく意思が  
おありであるかどうか。こういう点についてお伺いしたいと思ひ  
ます。

次に農家の現状におきましては、農業近代化のために、い  
ろの施設、機械化しなければならぬでございしますが、な  
かなか資金乏しい財政におきまして、これは非常に難しい  
わけでございます。従いまして大型機械の導入という  
ようなものは個々においては困難である。そこで農協あた  
りとタイアップ下さいまして大型機械、例えばブルドーザ  
トラクターというようなものを購入していただくことで、これを  
使用させていただくかと思ひます。特にブル  
ドーザのごときは、中でお持ち下さることによって、次に  
申し上げます。道路の改修にまた原野の開墾にこれら

を活用させ、そうして、ますます、農業意欲の向上をはかるように努力願いたいと思います。

次に今も市と農協ありうタイアップということを申し上げたが、現在市内には、農協もあります。そう農協の合併の問題が台頭しております。これは、まことに時宜を得た施策と思われますが、こつとつ農協もなかなか内容的には、おろろろちな点がございす。従いまして、こゝが合併という実現はなかなか困難がある。私は見ております。こういう点から考えまして、市としては、この際、まことに身勝手なお願ひかしません。こゝを合併という気持に持つていくために、こゝに對する一歩前において、不振農協に對する援助を行ないまして、そうして合併という線に持つていくように努力願いたい。こゝに對する具体策とお伺

いいたいと思います。

次に農村におきますところの市道・農道、町題でございますが、これは農業が機械化されるに従いまして現在の市道や農道においては不充足である。一かもその農道・市道がごく狭く道でありまして、今年、暮から春のような雨が多い年は、まことに耕作に出ていくに困難な状況である。市道については再三、砂利をいただいておるやでございますが、何と云いましょう、人夫が八幡、海浜まで取り出して積み込まなければならぬ。それも年一回か二回、どうしても車が多くなった今日、これでは道がいちむばかりで補修に追いついておる状況である。この状況を何とか打開していただきたい。本年度は幸いに土木において相当考慮がはらわれておるようでございますが、特に農村部においてこのダンブに砂利を積みか

みにくう人夫でございすが、これはまことにいろいろの都合から市の人には骨を折っておるようでございすが、

道路の修理は地えで行ないますが、砂利を積み込むだけは市において何とか積み込んでいただきたい。機械化

したなら、そう困難な仕事ではないと思ひますので、ぜひこれを願ひたいと思ひます。とともに農道の幅が非常に狭い。従つて大型化の機械では困難である。これを何とか

の拡張を計画していただきたい。一、現状において市道の新設拡張についても、農道の新設拡張についても

現在館山市の内規がもしよませんが、地元負担金というものがございまして、農家としては、地元負担金に悩ま

さしておるでございすが、私、館野地区で申しますと、これは教育関係にも関係いたしますが、小学校の講

堂、建設費、地元負担金、今度は中学校の体育館

建設に地元負担金、あそこが農道も作り、あそこが間道も作り、こゝも地元負担があるのだ、わおーなくてもわおせないが現状である。こういう点から考えまして何とか市面倒を見ていただきたい。

次の第三点、国民健康保険について市費高いなします。国民健康保険の受診率は年ごとにより上昇して参りました。それに伴いまして保険税はこゝも年ごとに増嵩していく状況にございます。健康保険組合は社会保険外の人たちといかえたらならば、館山市内の低所得者の寄り合いの世帯である。従いまして、この保険税なるものが、市民税ありの数倍、ひどいときには十倍もこゝをぬかなければならぬ状態になっておる。今度もこゝの給付率が七割に上昇していけば、ますますうなぎのぼりに保険税は上っていくのではないかと思います。なかなか組合員の負担は、

容易なことではない。そういう立場から考えまして、市一般財源から市長さんとしては、本年国や現在や予算額から考えまして一千万以上の繰り入れを以ていただきたい。こう考える一人でございます。これについて市長さんは実行して下さるかと思いますが、この点お伺いたいと思います。

最後にもう一つ、来年度は都市計画税が現行の二倍になる状況でございますが、農村部におきまして、とかくこの都市計画税については、私たちに苦情が再三出ておるのでございます。

これは農村部としては、せつかく税金が我々うところに課税されないという声が多いのであります。もちろんこれは、独立採算で都市計画税を以ておるのであります。我々としては、いろいろ説明はしておりますが、特にこれが

地元に還元されるように何か納得のいく説明ができるま  
うに市としてはいかなるべきかを、具体的に教えて  
いかなるべきかと思っています。

以上、申し上げまして、私の質問にかえさうしていただきたいと  
思います。(拍手)

(市長 本間 譲 君 登壇)

・市長(本間 譲 君) 小沢議員さんの市質問に対して、答  
えたいと思います。

第一点、幼児教育の根本方針と具体策ということに  
ごまかす、幼児教育の重要性は論を待たず、この  
幼児教育の根本方針と具体策について申し上げます  
からば、この問題は、単に幼児教育として幼児のみを切  
り離すべき問題ではなく、人間形成、人づくりの一断面と  
して考えるべきと考えらるべきです。現在、日本人と

してあるべき姿、すなわち、人間像について、目下専門家による審議会と重ねて検討中とのことでございます。教育の方針としては、幼稚園入園以前より教育と幼稚園教育、小学校教育、中学校教育さらにその以上の教育が根本的に一貫したものでなければならぬと存ずるわけでございます。

その具体策としては、市内各地域に学校教育法に基づいて幼稚園を設立し、幼稚園、小学校、中学校が一貫した教育をほどこすことを理想としておるわけでございます。

老朽校舎の根本的計画的対策についてでございますが、老朽校舎並びに不備格校舎が多いことはお認め通りでございますが、施設設備についても多くの問題があり、そこで教育委員会が基本線にのっとり、財源措置

を考へて源水改善に努力していきなにと考へております。  
それから学校教育の資質向上についてでございますが、  
このうち人事については、教育教員の人事については、  
全面的に教育委員会で実施すべきもので、この点につ  
いては教育長から答弁申し上げます。

教取員や資質の向上についてでございますが、資質の向  
上は研修あるのみと存じまして、この面については市長と  
しよって大いに意を用いしよって取組や約倍額にわたる  
予算を計上して参つておりますでございます。

三番目の青少年の教育についてでございますが、中学校  
或いは高等学校を卒業した青少年はほとんど市街  
に取を求めている状況なのでこれを対象として、社会教育  
を振興するために今後中央青年学級を開設し、その  
人づくりに資するものでございますが、この青少年の中

小企業者が推んでその従業員を学校に参如させるように鋭意啓発、宣伝を推めたいと思ひますが、これについては商工会議所とも協力していきたいと考えております。次に産業関係についてですが、幸いに本市に農業構造改善事業の指定を受け、現在、館野地区において、事業計画が推められており、昭和四十一年をもつて完了する予定でありますが、その完了を待ち、館山市におけるパロット地域として全地域に推めるように十分考ふる予定でございます。

三十九年度において果樹園かん水施設等に対する助成、近代化資金融資に対する指導、並びに利子補給を十三地域に対して土地改良事業の指導等、農業近代化の施策を推進する考えでございます。

第二問といたことで、農業センター或いは酪農センター

の設置については、市独自の具体策はございませんが、此一環として農業技術指導機関の整備を検討中で、極力この実現に努力する考えでございます。

第三向の農産物の流通対策は、まことに重要な問題であり、すが、これは広く果全域において計画すべきで、単に市独自で考えでは解決できないので、各関係機関と密接な協議の上、慎重に進める考えでございます。

農産物市場の開設につきましても、法規にもございすが、人口十五万都市でなければ、そう法規にかなつておらないのでございまして、現状では、実現が困難でございます。また、現在、やることは考えておりません。なお、農産物の加工工場について、現在、具体策はございませんが、これにつきましても、生産者と協議いたしまして、善処を以て参りたいと考えております。

第四点、農協合併につきましても、先に合併促進委員会を設置して合併促進をはかつておりますが、経済団体である性格上、早急な実現は困難視されますが、昭和三十九年度中にそう実現をすべく努めて参りましたと存しております。また合併に対する助成額につきましても、県の関係もあると思いますが、市といえども、でもある程度の額を考へておるわけでございます。

第五向う大型機械の導入については、当初農業構造改善事業の計画の中でブルトーザーの購入を考へており、また、実現が困難となりまゐりました。しかし、その必要に迫り、近く農協合併後にも、市の補助において購入方法を考へたいと考へております。

こゝは、農業構造改善の基盤整備については、仕事を請負にまかせてやるというふうな関係もございまして、

買わなくなった。こういうことでございます。

第六の農道の新設改修は年次計画でやっておりますが、現在市内各所を巡回し農村に対する意見を聞いておりますので、その実情により諸問題の解決として善処したいと考えております。

それから国民健康保険についてでございますが、中實向の趣旨は全く同感であります。中承知の通り一般会計財政の現況においては国保会計もまた独立採算性の状態で国保被保険者の占める割合は総人口の五二%であることも、中留意願いたいと思っております。本年度の保険税は前年度に比べて急増する感じがいたしますが、世帯当り平均負担額は県下各市に比べてまして中位にございます。

前年度は相当額、保険料の値下げを経て本年度は

いわゆる平常の負担額に復したといつてもいいと思ひます。カーナガハに給付に要する経費の増強は予測できない状況でございますので、予算の執行の状況において赤字を生ずる場合においては、もちろん一般会計において繰り出しの方途を講じたいと考えております。

第四番目の来年度都市計画税は、現行の二倍になるが農村部については、まことに寒心に耐えない問題であると思ふ。カーナガハ他市並みのことであれば、やむを得ないが、この財源の農村部へ還元については、具体的説明を願うという市費向でございます。

これに対してまゝてお答えするわけでございますが、都市計画税については、昭和三十九年度から従来より「百分の一」から「百分の二」と相なり倍額増税率にナリました。地方税法「オセ百二条の三」に「都市計画税の税率は、百分の二と成

えることができない」といふ条文に基いて今回改正をして他市  
並みとしたものでございます。新市方面の環境については  
特に考慮して参りました。都市計画税、そのものについて  
何をやったかというお答えはできないが、教育、農業、土木の全  
般にわたる施設の充実、農業の助成、橋梁の修繕、道路  
路用資材の増量等の仕事により新市との均衡に  
努めて参りました。特に土木費中の道路維持修繕につ  
いては、三十九年度予算において前年度より二百四十三  
万円を増額し、その後逐年経費の増加とはやり維持  
保全の万全を期して参りました。三十八年度決算見  
込みを申し上げますと、道路維持修繕費は千五百八十  
万円と相なります。約七倍の増額となり、砂利等の購  
入として六百二十七万円余で約十二倍の経費を投入し  
て維持補修をしております。

例を砂に取りますと、昭和三十七年度は新市への総  
 数量が三五％三千五百立方メートル運搬し三十八年度  
 において四一％四千五百二十五立方メートル前年より千四百  
 立方メートルの増額となり、要望にそって参りました。  
 今後におきましても十分意をいたすよう努力をいたし  
 たいと考えておるわけでございます。以上でございます。

・教育長（工藤和平君）中實向う一点ういわれる市民の人  
 づくりの關係これにつきまゝて教育委員会の見解を申し  
 上げます。第一点、幼児教育の根本方針と具体案  
 ということでございますがこれは市長からも申されまゝに  
 けれども「三つ子、魂、百までも」という言葉のうちに  
 幼少の頃に性格が決定する、という観念に立ちまゝて、  
 就学前の人間形成、幼稚園園生活を通じて豊かな  
 心で用事な社会的なゆとり、大人づくりをするとい

うことが眼目でございます。

具体案といたしまゝで、六つの幼稚園にこの根本方針  
を持った経営方針を織り込ませてあります。さらに教  
育のことはもちろん理想を達成するには、究極は人  
間の問題でございますので、教諭にその人を得るという  
ことが要諦であらうかと思ひます。

そういう観点に立ちまゝで、さなきだに人を得るにむずか  
しい時代におきまゝで、優秀な教諭の確保ということ  
に努力をいたしまして、今年度から、いわゆる登録方  
式を採用いたしまして、年度初めに公募をいたしまして  
ここに志願をつくりまして、何人かを成績によつて書類に  
よつて序列をして登録してございます。各幼稚園に産  
休補助、病氣、休暇という場合に逐次これを補充す  
るということ、一番大事な教諭の確保に努めておるわ

けでございます。なお、先ほど市長が申さるようには幼稚園と小学校、中学校、その他教育の一貫性にかんがみまして、小中学校に研修うありますたびごとによろ限り幼稚園も参加してともどもに研修をする。こういうふうな方策を取ってございます。もつとたくさんございますけれども大体大きな具体的な点はかような点でございます。

第三点でございます。老朽不適格校舎の解消対策といたしましてございますが、これは新市町村五ヶ年計画という中の教育の中に若干盛ってございますが、これが四十年度で承知するように終了いたします。そこにもつてきまして三十七年度以降からは、館山高校に工業課程の併設というようない新しい事業が加わりまして加ふるに三十八年度より九月に危険校舎の果

認定というものが大幅にかわったわけでございます。そこで、  
私もびっくりしたんですが、具体的に申し上げますと、三つの  
学校がその範疇に入らないだけです。那古小、西小、畑小  
この三校は入りませんが、これは作業内のように三分の一の補  
助がございしますが、その補助が対象になる、要するに改  
築を要するものが約一九％、全部が建築物のこういう状  
況でございます。その中にももちろん、まだ危険校舎を対象  
にすまわけにいきませんので、中学校や技術家庭科の向  
題、三十七年度に完成すべきものがいまだに完成でき  
ない。まことに申し分けない実情でございます。

三十九年度にいていまだに完成できないような状態でござ  
います。この向題、屋内体育館、特別教室、その他  
いろいろな施設、給食堂、プール、こういうものを考え、さら  
に高等専科、これはやがて完成いたしますが、幼稚園

こういうものをいまして去る十一月に事務局案による市  
 の学校施設整備長期計画というものを提案した  
 うでございしますが、三十九年度予算にありましてそ  
 う中で若干、市の財源上の理由から繰り延べざるを  
 得ない事業も生じたわけでございます。先ほど申し  
 上げましたように、最近不適格校舎の国庫補助とい  
 う問題も生じてまいりました。そこにもつてきて、今後中  
 学校の建設に關しましては、近代的な施設給食室を  
 是非作らねばならぬような当局の要望もありますので、  
 こういう建築に關しましては、専門家の見解を十分  
 取り入れてできるだけ完備したものを作りたいとい  
 う意味から、全面的な検討中の段階に現在、  
 あるわけでございます。

こいにつままして、鋭意今後この問題と取り組んで立案

計画を決定したい。こういうことでございます。

なお、もう一つ、その中にございます施設、内容の整備ということでございますが、これは私も同感でございます。三十七年度に教育課程の改定がございまして、三十七年度から実施というので、三十七年度の初めに私も委員会といひまして、小中学校の現在持っておる教員、備品というものが実態調査をいたしまして、そうして文部省で基準を定めております理科の基準があるわけですが、その他の教科については文部省案なるものはないのでございます。そこで市内の校長、教科主任を合しまして大体この教科を子供に学習させるためには、どう位が備品が必要かという絶対量を討議させまして、館山市として一つの基準を定めたいでございす。その基準に照らしまして三十八年六月現在でございますが、市が

教員、備品がどう位か、不足額はどうか、これは、  
 学校ごと、教科ごとに調べました表でございすが、それ  
 によりますと不足額が何と九百十八万八千五百十円、こ  
 う巨額に上つたのでございまして、もちろんこれは、年次  
 計画で逐次補充していくということになるわけござい  
 ます。その台帳を各学校教育委員会両方で同じ  
 ものを持っておりまして今年度はこの点を補充した。来  
 年度は幾らかの予算でこれを補充していきたいというこ  
 とを交換し合つて補充の万全を期しているわけござい  
 ます。これは、学力向上にもつとも大事なことの一つであ  
 るかと考えております。

それから教育の機会均等の意味から人事はどうなつ  
 ているか、教員異動の根本方針といつては、果  
 の大きな方針に準拠して教育水準の向上が莫うい

ております。そのためには、教材を適所に配する。新進  
を抜てきし新進の登用によって、現場に新風を送り、刷  
新をはかる。これが根本方針でございます。具体案と  
いたしましては、広域人事の交流、市内だけではございま  
せん。他人事等の交流をするということが我々の理想に  
でございます。

なお、資質向上の対策でございますが、具体案といいたし  
ましては、県主催の各種研究会、講習会、或いは発表会  
こういうものにはもちろん参加させますけれども、市独自と  
いたしまして、各教科別の研究会、講習会とありあ  
るごとに開催しております。これは理論面、学習指導  
面、技術面、あらゆる面にわたっております。

なおまた各学校に毎年、初めに研究テーマを与えま  
して、それを一年間研究しまして発表する。かようなやり

返しまして、取組のたえざる研修へと我々の助成を以て  
おるわけでございます。

最後に青少年社会教育問題の今後、具体方針  
ということでございますが、これは、市や指摘のように青少  
年の教育の刷新は私も認めますが、これも市  
長から申さるまいたように、農漁村の青少年が市街地  
におもむくということでありまして、その結果、必然的に  
いわゆる農村地区の青年学級が立ち消えというような  
事態が生ずるわけでございます。

そこで我々考えられますことは、市街地の館山市で申し  
ますと、北条館山地区ですでに就取した青少年を対  
象としてどういうふうに教育するかということが考えられ  
るわけでございます。

隣りの木更津市の場合を申し上げますと、中央青年学

級というものを木更津市で昨年設置しました。果う補助四十万、自分の持ち出しが八十万、その他を持ちまして、非常な意気込みを持って中央青年学級をやったのでございますが、カーカーふたをあげて見ますと、学級教員が二十二人という経営困難な状態でございます。従いまして我々はこれに魅力を求めるという実技・技能、或いは一般教養、これをさずける。具体的に申し上げますとソロバン、簿記、あるいは自動車、運転、こういうふうなことでやがて公的な資格を与えてもらう。こういうことを一応考えております。

もう一つ、青少年が集まる場所、青少年センターと申します。、こういうことも果う補助、国の補助がありますれば、なお結構でありますけれども、青少年が集まる場所、研修の場所、健全娯楽の場所、青少年の場を作り

まして相まって青少年の健全育成に持っていく。こういうふうな構想を持っております。

一五番(小沢恵太郎君)だいま中答弁下さいました大体については了といえます。

時間がございまして、予算質疑に大部分はゆずりまして、一点をお伺いしたいと思います。

幼児教育におきまして私がお伺いしたいのは、現在幼稚園施設が設けられてあるところ、教育の充実はもちろんのことですが、幼稚園のないところ、幼児教育をどうするか。保育園や地域になつておるところ、幼稚園教育、幼稚園にいつて遠方まで通わせるといふ状態ではないか。こういうところに幼稚園を設置して下さることができるか。しかも、地元の負担が多くてはなかなか困難である。

それらについて一点お伺いしたい。あとは予算の質問

のときになります。以上。

・教育長(工藤和子君) 教育委員会として市説明申し上げます。  
今日問題につきましては、これはかつて申し上げましたが未だ  
置の場所が五地区あると思いますが、これに關しきことは  
現在、北条幼稚園の問題にからんで根本的に考える  
問題が一つあると思います。時間で時間をかりて研究して  
みたいと思います。なお、市当局、予算、見通し等も  
重要な要素であろうかと思ひます。 時間をかりて研  
究いたします。

・議長(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後 三時三十九分	休憩
午後 四時 十三分	再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
二三番議員中村省吾君中登壇願います。

(二三番議員中村省吾君登壇)

二三番(中村省吾君)商業政策と館空の拡張問題につきまして、二項目についての中實向を申し上げたいと思います。

まず、第一点の商業政策でございますけれども、この商業政策につきまして私はまず、表面的やら見た、いわゆる内容的なものとは別といたしまして外觀的に見た商業政策というものがありかについて、市長、考えを聞わんとするものでございます。

当館山市の産業別所得構成を見て参りますと、第一次産業は、六三・七％でございますけれども、このうち商業の占める分野というものが三八・四％を占めております。

いかに商業の館山市における全産業の中で位置づけ  
らねたものが大きいかということも如実に示したものでご  
ざいます。一か一ながら、現実の館山市の商店街とい  
うものを見まわるときに店舗が旧来そのままの姿であつ  
ていけば、十九世紀にも等しいような形態をなしておること  
でございます。加えまして道路はさわめて狭くてその上  
自動車がつみにふえまして商店の商品をのぞくどこ  
ろか横を向いて歩けないというような現実を示しております。  
ます。このような状態の中で果して今後三八・四％とい  
う三十五年度当時のものでございすけれども、そのような  
な位置を占めておる今後の商業政策というものが  
発展があらうかということでございます。従いましてこ  
の点において商業の発展策を講ずるためには市長の  
いわゆるように技術策が是非とも必要であらうかと

存ずるであります。

この意味におきまして具体的に次の三点について市質  
向申し上げたいと存じます。

第一点として市長は施政方針の中で「他産業と  
密接不離な関係において高い次元から、そうあるべき姿  
に意を用いていきたい。このように申さるまいか。きわめ  
て高度なお考え、表現でございます。

従つてその内容を具体的に示し願いたいと思うもので  
ございます。

第二点として不燃性建物による商店街形成の意  
図を明らかにいたしておりますが、これは、当館山市の地  
区内に防火地帯申請、地域指定申請、用音があ  
るかどうかということでございます。

なお本問題につきましても、商工会議所等との話し合ひ

その点は、どうなつてゐるか、この点を詳細に中説明願ひたいと思ひます。

現在、商店街の道路がきつめて狭い。よつて道路を拡張し、なおかつ、歩道等を設置する意見があるうかどうか。この計画があるうかどうか。この点について中説明を願ひたいと思ふものでございます。

第二項目といひまして、館山航空隊敷地の拡張でございますけれども、この問題を考えますときに、当時館山航空隊が昭和二十八年に館山に設置されるというふうな時点におきまして、一部の市民の中から館山航空隊を設置しなうば、将来の館山市は産業発展に非常な支障をきたすということと憂えて極力、これを反対しておつたところが、当時あつたと思ふのでございます。はたせるか、現在、本間市長がかがけております、十萬都市建設

を目標として産業開発の面におきましても、この館山航空隊基地を設置したということが一大障害となっておるということは論を待たないということであると思つてあります。かかる時期におきまして、今世論に問題になつておりますように、館山航空隊基地が拡張されるようになっております。この問題につきましては、市長は先般金員協議会を開催いたしまして、その中で観光港使用に支障をきたす計画には、絶対反対であるという旨を表明いたしております。なお、協議会もこれを了承しておるところでございますが、一方市民を見ますと、去る十五日には館山市の勤労者を中心にいたしまして、二千名、反対集会を開催しております。また、あつり網業者、貸船組合、こゝまた、反対決議を行ない、他方地元地区、地元観光協会、漁業会、こゝらも

反対表明をいたしておる状態でございます。このような状態を背景といたしまして、市長は現在まで、どのような行動を取ってきたか、また今後、この拡張問題について、いかなる方法で、この館空間問題に対処していくか、その点につきまして、具体的に詳細に、説明を願いたいと思つてもございます。以上でございます。（拍手）

（市長 本間譲君登壇）

市長（本間譲君）中村議員さん、中質問に対して、お答えいたします。

第一点、商業政策についてでございますが、商業振興と申しまして、商業的施策のみでなく、関連部内である観光事業、工業分野、農林水産等に対する振興施策を講じ、このよう産業振興により、市民の経済力を高め、強い購買力を形成しつつ、それに合わせて商業振

興施策を効果的に行ないたいという考えでございます。  
 こうするな考えの方から本年度も各産業部内にそれぞれ  
 の投資的経費を計上いたした次第でございます。

これにつきまして、商工会議所とも密接な連絡を取り  
 まして振興をはかって参りたいと存するわけでございます。  
 次に可燃性建物それから商店街の道路の拡張の件  
 でございますが、館山市の経済の中心地となつておる北条  
 館の船形、那古等々市街地には農村或いは漁業  
 の部落から次第に発展したものと云わねば、また発展の  
 状態は、道路に就いて局部的に発展したものが順次、  
 細長い市街地を形成したものであり、その中心となる  
 ところは房州登崎の拠点となり、據前進をきわめて  
 おります。

道路が狭いため交通難をきたし、木造の家屋は古

となり、都市形態としてはいさう感ぜられない状態にあるので、こゝろ不燃性をはかり、いつそこの伸展を考へる  
次第でございます。

一かゝりながら、商店街改修は市民の絶大な協力がなければどうも成り立てられない大事業であり、多額の費用が必要である關係上、実施に當つては、金融、各種の方途を講じなければならぬと考へております。

また商店街の不燃性、造成と相まつて道路の拡張もこれと並行して計画、実施しなければ都市形態はとつていけませんので、こゝろ一連の計画は現在行なわれておる都市診断の都市計画部内にもある程度、答えが出来るかと考へております。その結果に基いてさらに検討の上、管理側の設定と相まつて防火地帯整備、防火地帯の地域設定の諸手続を、不燃化の商店街の

設置に努力いたしたいと思っております。

次に館空の拡張の件でございますが、この点につきましては、先般全員協議会を申さまゝで、やはり承を得てあるわけでございますが、館空の伊藤司令もこの間参りまして、いろいろの説明がありましたが、支障のないように進めていきたい。それには話し合ひをもつていきたい。こういう希望がございまして、私は関係業者、漁業者とか、或いは港湾関係業者とか、観光関係の方々と司令を交えて懇談して善処して参りたいと思ひます。

また一方におきましては、関係官庁、防衛庁、大蔵省、厚生省、千葉県等に対して議長さんとともに来たる二十七日に上京陳情する予定になっております。

二三番(中村省吾君)質問の商業政策におきまして、非常に遅れておる。市長さんも、今言われまゝなように、いわけ

る非近代的な商店街を形成されてゐるわけでございます。  
こういふ中において、どうしたらいいんだらうということは極  
めてむずかしい問題である。

そういふ中から、実は私も第一点で申しましたように市長  
さんが非常に高い次元から、まゝというふうなことを言  
わしてまいるので、私は、何かもうサ―技術的な改革論が  
あるのではないかと、いうことで、お聞きしたわけですが、今  
聞いてみますと、非常に何と申しますか、極めて平々  
なお考えであるということと、それについて、いまさら、とや  
めは、いいませんが、一つだけ二、三点について申し上げま  
す。こういった施政方針を出す中では、作文的な字句  
を使わずに、もうサ―具体的なものを、出してほしいという  
ことでございます。

私も、この方針を聞きまして、こういうふうな「高い次元か

らあるべき姿に意を用いて」という表現を使わします。  
 あう商店街をどうしたらいいかという実質に考える  
 時美から申すならば、いろいろ論議されておるような  
 二次元的な世界から四次元の世界でも見ようかな考え  
 方があつてはいいか。こういうふうなことで考えてしまふ  
 わけです。私も聞いても、そういう誤解と申しますか、  
 飛躍的考へ方を求めるような方針は避けていただきたい  
 と思いますわけです。表現は避けていただきたいと思つ  
 わけでございます。

次の可燃性建物による商店街の形成、この中で由題  
 とだろうと思つたのは、やはり申請であらうかと思つた  
 そうした中でおそらく商店街の方たちも現在、建物  
 を何とかしなければならぬということとは多くの人が  
 考へておることだろうと思つた。

「カーナバラ」その建設自身がどういふこと  
で悩んでゐるうが美能だろつと思ひます。そう一た中で  
市が一つの方々として取るうはやはり防火地帯の市長さ  
んは防火地帯、または準防火地帯という言葉を使つた  
わけですが、私は防火地帯、指定申請といふことにも準  
防火地帯で結構だろつと思ふわけでございます。

また防火地帯として指定さるならば、困る面も出てくる  
のではないかと思ふわけでございます。そう一た点はよく  
検討なさつてこれから申請していただきたいと思ふわけ  
でございます。

それはさておきまして、こゝのような防火地帯の、一つは申請を  
指定を受ける。このことが資金融資の道を広くた  
であろつと思ふわけでございます。従つて是非ともそ

ういふものは、商店連合会なり、或いは商工会議所等

ともよく緊密なる連絡を取りまゝで、皆さんの意向を  
 こんでこうした措置を取ることが将来の商店街を改革  
 することになるだろうと思います。なお、道路の拡張問  
 題でございますが、こゝまた不燃性建物そういうものを建  
 設するにおきまゝで、密接不可分の関係にございます。  
 こゝ以外に私は、あう狭い商店街を拡張するということば  
 機会がおそろくないだろうと思うわけでございます。  
 従つて道路を拡張する面においても、こゝ不燃性建物に  
 切りかえて、並代的な商店街を建設するということでは  
 十分な努力をお願ひいたしたいと思ひます。  
 第一項に對しては了承いたしました。

次に館山航空隊基地区拡張問題でございますけれども  
 も市長さんが、二十六日議長ともども防衛庁に出向し  
 ころうということをおっしゃいますが、それともう一つ、観光協

会、通業者、そういう関係する方たちと或いは伊藤司令とよく相談して、話し合つてということも言われております。私は話し合つてという言葉が何を意味するものか疑問に思うもうでございます。はっきりと現時点において、館山航空隊を拡張すべし館山市にとってマイナスになるということは明らかになっておると思うわけでございます。

従つて是非とも話し合ひでなく、この問題だけは是非が非でも館山市にとってプラスにはならないのだ。マイナスになるのだから、こゝ面だけは中止してほーいということをお願い上げるような態度がほーいわけです。なお防衛庁に對しても、そういう表現で交渉していくのかどうか。なお厚生省に對して、国民休暇村の建設を必ず変更しないであつてくゝるというふうな、一れを取るような音ん思ひが

あるのかどうか。

・市長（本間譲君）厚生省に対しては、絶対に計画を変更してもうつてはならないということについて念を押す考  
えでございます。

防衛庁等につきましても現在う現段階の情勢では、  
観光上からしても産業の発展からしても、支障が  
あるから、そういう支障のないように変更していただきた  
いということをお願いいたします。

・二三番（中村省吾君）厚生省に対して国民休暇村につい  
ては計画を変更しないでやってもらいたいということと  
打ち出していくということとでございますので、是非ともそう  
いうことで交渉されて一つの厚生省の回答をはっきり  
といただいてきてもらうようにしていただきたいと思つて  
います。それらただ問題は航空部隊基地の拡張問題は当

時、私が考えるうに先ほども申し上げましたように、当初は（  
リコプター）の練習学校であるということだったんです。

それが時代を衡（はか）るにおきまゝで現時点では、明らかに  
軍事的要素をもってきたわけでございます。

なお、こゝから先どうなるかということとは、私どもが考え  
なければならぬ問題だろうと思います。そういう中にお  
つて、こうところが将来、あのときは、こうすればよかったという極  
を残してはならぬということと私は先ほども、十八年、当時  
今日あるを予期してあつたとき又対処した。現実の姿になつ  
てきておるといふことを今考えまゝして、こゝの問題に対処しな  
ければならぬということと私は申し上げておるわけござい  
ます。そういう意味から市長さん、こゝの問題をあくまで  
これを阻止するといふ、その気持ちが那辺にあるかということ  
でございます。市民といふ、まゝでは、あらゆる階層、

ほとんど反対しておるわけでございます。従って市長が中心となって先頭となって戦う意思があるかどうか。この点をお聞きしたいと思ひます。

・市長(本間譲君) 現在の施設に対しては、何回も申し上げますが、ああいう姿では産業上からしても観光上からしてもまずいので、それを変更するように強く許えて実現を期そう。二ういう考えかでございます。

・二三番(中村省吾君) 市民の反対の意思を尊重してあくまでも市の考えておる産業に支障をきたさないという面でその線を持てやうていく。このように確認してよろしうございますね。

・市長(本間譲君) さういふやうでございます。

・二三番(中村省吾君) そうするともう一点だけくといふようですが申し上げますが、先ほど昭和三十年の十一月二十八日に実

は、館山市議会におきまして、この館山航空隊に水上機を配  
置するということがございまして、このときに例うスロープの  
向題を取り上げまして、議会において、昭和三十年十一月  
二十八日に決議が行われております。

この決議に対してどうようにお考えになつておるか、お伺い  
したいと思ひます。念のために読んで見ます。

決議書、館山港を遠洋漁業基地として拡充すこと  
め、昭和二十八年七月十三日樹立した館山港総合開発  
計画は、千葉県総合開発審議会において選定され、  
さらに千葉県議会においても、本趣旨に基く本市の請  
願は、昭和二十八年七月十四日の本会議において採択さ  
れ、果も年々多額の経費を投じて着々実施せられてつづ  
るが、これまで本計画の一部、旧館山海軍航空隊、水上  
機班傾斜面を防衛庁において水上機基地として利用計

画中の趣かきでは本市待望の念願は挫折を見ん  
いては本県水産振興の一大障害とならざるを得ない。  
よって本市議会は改めて右総合開発計画を再確認  
し、こゝが振興開発に支障を来すべき計画を排除  
するものである。

右決議する。昭和三十年八月二十八日 館山市議会。

こゝに対してどういう考えを持つておるか。お伺いしたいと思  
います。

・市長(本間譲君)　こゝ決議は尊重していきたいと考えてお  
ります。

・三番(中村省吾君)　そうですね。市長さんのお考えとこゝ  
決議書の中で館山港総合開発計画というものが優  
先して基地の拡張その他の中で漁業その他港湾利  
用というようなものに対しては、こゝが最も優先するのだ

ということが考えらるわけでございますが、そのように私も理解してよろしいものでうか。なお先ほど申されましたように市長も市民の大方を考えを中心として市長自ら、その計画を阻止するにやぶさかでない。このように理解してよろしいやうでございますか。

・市長（本間鏡君）先ほど私は趣旨を申し上げましたが、そういう趣旨と合致すると思えますが、いかがでしょうか。今申されたことは。

・三番（中村省吾君）私、今、市長さんへお答えは、私、言われたことに対する、市答弁は、今までの答弁と合致してある。そのように申されておるわけでございすね。そういうことでございまして。

私、最後に質問したことに對しては、市長、今までの答弁でそういうことになる。そういうことでございすね。

・市長(本間 謙君) とういうわけですね。

・二三番(中村省吾君) 了解。とういうことで市長のお考えもよくわかりました。一か一か。最後に要望申し上げたいのでございします。とういう問題は極めて私は困難であらうと思つてあります。

一番に駈になるのは市民がこぞつて反対であり、中央で政策としてきまつたから、どうにもならないのだとういう考え方があることでございします。どうか、その点も市長さんは、市民の市長でございします。市民の考えを尊重して最後まで、とういことを市民のために、市努力願うこととお願ひいたしまして、私の質問を終りたいと思ひます。

・議長(黒川 佐太郎君) 一八番議員西村真次君の登壇願ひします。

(一八番議員 西村真次君登壇) (拍手)

二八番(西村真次君)私、質問の内容に因りましては、既にその質問者におきまして十分尽くされておるようによ考えます。従いまして蛇足を加えるようでは、ことに恐縮でございますけれども一応与えらるる時間もでございますので、多少異なつた角度におきまして二、三当局の所信を承わりたいと思つてあります。

まず、その前に私は第二年目を迎へまして、本間市長さんが、市民の要望にこたえて正直に市の実態をながめ、またすなおに市民の声に耳をかたむけ、そうして市政向上のために日夜真剣な努力をばらうておられることに深く敬意を表すものでございます。申すまでもなく、昭和三十一年度における本市の予算は実に六億五千六百万円、特別会計を合わせまして八億用以上という規模とつたわけでございます。

このことは一面、館山市勢の伸展を意味するものでありまして、市同慶に耐えないところであります。

のけならず、本間市長の公約に基く産業の振興、観光施設の整備、さらに教育施設の拡充という三つの柱を重点とす。予算編成がなされ、このことに対しては重ねて敬意を表するにやぶさかではございません。一か一ながら先ほど来、幾度も話題に上っておるものであります。本間市長の公約につきましては、いま一点きわめて重要な事項がありますことをお忘れではないはずだと申すのであります。

そこでまず、お伺い申し上げますことは、本間公約の第一眼目としてまた、これが故にこそ、市民大多数の市支拂持を得られずでありますところの十萬都市の建設という課題をいかにする方法によって実現に移していくということ

がさわめて重大なことではないかと思つてあります。

人口の増加は、直ちにその都市の繁栄を裏づけるものであるといふことは、古来行政上の原則であります。この意味におきまして、私は、十方都市の建設といふことについては、双手をあげて賛成して参つた人でございますが、一か一なばら、その具体的方策、手段、方法等につきましては、今まで十分に明らかになつてはおらないように思つてあります。中承知のようにならば、千葉県の大施策であります。京葉工業地帯の造成によりまして、大工場の進出もめざましいものがあります。

これによつて富津の線まで及ぶ可能性があるわけでありませんが、これに伴ひまして必然的に考えらるゝことは、氣候温暖にして風光明媚な我が房州の地がいわゆるベッドタウンとして、休養地として重要性を加えてくるということ

であります。

特にそのに蔵部ともいうべき我が館山市におきましては、むしろ私はこの面によって人口の自然増加を観光という閃進を積極的に考えていくことが、館山市の今後進むべき大きな方向ではなからうかと思っておりますが、ここにおいて当然必要となつてきますのは、オ一に住宅であり、また休養施設であり、さらには娯樂的施設ということでございます。今日館山市の実情を見ますときに、地価の高騰はまことに著しいものがござります。家を建てたくても安い土地が手に入らない。無理をして土地を求めれば、家を建てる金になくするという嘆きは、各所に聞かれることであります。住むべき家数ぐくんでどうして人口の増加が望み得るでありましようか。もちろん住宅の必要と同時に、やはり市長の指摘されております水資源の

確保、さらに電力等も欠くべからざる大きな要件ではあり  
ますが、水資源の点につきましては、既に市長の賢明に  
してかつ建設的な考えによりまして三芳、畠浦、とうきん  
事業として実現を期待し得る望みがありやうであります。  
すなわちこの点については、一歩前進したわけであ  
ります。また電力の面につきましては、先般私が東電と  
張所にお尋ねしたところによりますと、仮りに十万人に達  
すると一基でも十分配電し得る態勢にふさわしいというお答え  
をいただきました。大いに意を強くした次第であります。こ  
れにふさわしい住宅はもとより観念、その他の施設に要する  
敷地という点につきましては、全く何らの曙光も見えし得  
ないのが館山市の現状であります。

住宅を建てたくても土地がない。観念のため施設しよう  
としても敷地がない。これが原因となって業者は自決に移

転する。或いは鴨川に移る。と同時に観光客の足は止まらない。極言すれば、今や館山市は外房を訪れる観光客の通路であり得ないというような結果をすでに招いておるわけであります。こうまづの状態において観光産業を主体とする十万都市の建設が果して可能であるかどうか、まことに細い限りであると思っております。

こゝ実績にかんがみまして、特に市長にお尋ねいたしたいことは、オーストリアに住宅地帯を新設造成する意図が、おありではないかどうかという点であります。今サーミ体的に申し上げますなら、現在館山市内に存在する国有地及び私有地は、先ほど江田議員の調査して答えるというお答えであります。

一部私に逆にお教えいたしてもよろしいわけでございますが、

国有地は、旧市内において十八町四畝歩でございます。

新市内において四町二反歩、合わせまして、二十二町二反四畝歩、市有地は十三町九反七畝二十一歩あるように思われます。県有地につきましては、データーを持って参ります。結局、こちらを加えて、自衛隊、教地を除きまして、なお、三十町歩を上回わることが推定されるわけであり、坪数に換算いたしますならば、更に十萬坪に相当するわけであり、仮りにこれを一世帯三十坪に区画する

るとすれば、少くとも三千三百戸の住宅建設が可能であります。一世帯四人平均にいたしまして、一万三千人の人口を包容し得るという計算になるわけであり、もちろんこれは単に比較のための計算に過ぎないわけであり、ましていかんにも、このだけの国有地、或いは、県有地、市有地が存在するということは、これは事実で

あります。これを整理する。開発していきます。ならば、立派に活用できる土地というものは十分あるはずであります。この点に刮目されまして、市においてこれを払い下げ、或いは使用許可を得ることによって住宅はもちろぬのこと。観光施設等、基盤を造成するお考えがないかどうか。田地建設を考えておられるというふうな先ほどの御説明もありましたけれども、その基盤がなくてはならないわけがあります。住宅の増設によって定住人口の増加していくということは、これは私は最も望ましいことと思っておりますけれども、たとえ、一時的にもせよ、観光面における人口の増加また極端に申し上げるならば、夜だけの人口増加であってもよろしいのではないかと。要するに受け入れ態勢の強化がなくていかなる施設も人口の増加ということも、これをかかっていくことは至難であると存じまして、あえて当局の

見解を承わりたいと思つてあります。

次に第二点といつたまま、観光施設の整備、充実という点についてお伺いいたしたいと存じます。

既に申し上げたように昭和三十九年度における重要施策の一環といつたまま、観光施設の整備とそう対策を取り上げておられるわけでございます。このことはまことに結構なことと思つてありますが、一かーながら果してこれが具体策はいかにという点におきましては、遺憾ながら施政方針における中へ説明というものは十分ではなかつたように考えるものでございます。

先ほども話題にかりました民間大資本の導入にふらない限り大型化した観光施設に対して全面的に市費を充てていくことは至難である。かように市長は説明しまたお答えをいたしておるわけですが、この点につ

ましては前にお答えもありましたことですので、あえて申し上げませんけれども、この民間大資本と申さなくても、具体的にいかなる方面のいかなる資本を予定しておられるというのか、この点につきましては先ほど一々所だけ伺ったように聞いておりますが、なおこの点をお伺いいたらないと思つたのでございます。

なおまた有料道路の着工、或いは国民休暇村事業の具体化、さらに城山展望台の贯通一等、確かに一つの観光施策面において大なる進歩をもたらすものであると、いうこと、並びにそういうけれども、多額の市費を必要としていないということにつきましては、私は了解いたすものであり、また、そう中努力に付しましては、大いに多とするものであります。が、一か一なば、そう又面におきまして、常にいわゆる「人のふんどしで相撲を取る」と

いふようは積極的施策のゆであつてよろしいかどうか。  
現に京成電鉄の大資本を目途といひまゝて、城  
山城や築城というものは文字通り全くはずれたという  
結果を生じておるわけであります。かような事態に照  
らしますときいやゝくも重点的観念施策というものが  
きわめて容易に考えられていゝうではないかということも  
慮いたすわけであります。

三十九年度について見ましても、観念費として計上されてお  
ります額は、約九百万円強であります。三十八年度に比べ  
まゝてゝ上回つてはおりますけれども、ほとんどやわりの  
ない数字でございます。

従いまゝてこれをもって昭和三十九年度における市  
構想に基く重点的施策の一環であると申さねばこと  
に私は大きな疑問を感じざるものであります。

南房州有料道路。着工。国民休暇村事業。具体策だけをもって能事終りとしてよろいものでありまいうか。この際私は一段と積極的な観光施策に切りかえらねることを切望いたす次第でございます。この意味におきまして特にいふ一点だけ付け加えてお尋ねいたいと思っております。

すなわち、目下渠当局において立案されております、城山展望台の建設に当りまして、永年にわたる地元民の熱意と要望にこたえらねる渠と協力いたしまして、せめてそう外觀だけでも、天守閣型展望台といいたしまして、これに資料館或いは郷土館というふうなものを併設することが最もよい方策であり、かつ積極的施策につながるゆえんではないかと信ずるものであります。

先ほど市長さんは観光施策の推進につきましては地

区民の協力が必要であり、かように申し出ておりまして、私も同感でございます。この城山地区に關しましては、地区民は、数年来非常に協力してきております。この協力に答える意味においても、この方策が最良であり、と信ずるものであります。

市長、や所信を承わりたいと思っております。以上、大別いたしまして、本間公約を貫くために将来につながる人口増加並びに観光対策という面についてお伺いいたす次第でございます。納得できず、答弁をお願いいたします。次ででございます。(拍手)

(市長 本間 譲 君 登壇)

市長(本間 譲 君) 西村議員さんの中曽町に對しましてお答えいたします。

第一点の向題でございますが、最近地価が高騰が住宅

難う緩和を阻害していることは片指摘の通りであります。  
よつて國、県有地を市が払い下げ、若しくは使用許可  
を得て、宅地造成如何とすることがございますが、片承知の  
通り経済的必然的方向として、農漁村より市街地、  
地方都市より大都市にと人口が集中が激しく行なわれ、  
しかも、その大部分が就職就労等、年令的にも三才  
未満の未婚者が多く、ために世帯を形成して住宅需  
要者とかり得ることが考えらる。

今後京葉工業地帯の造成に伴ひ、住宅或いは  
交通の利便、地に集中することが考えらるゝで、以上  
の観点から、國有地、県有地ということとは、地価の点から  
よこにと當を得た考えと思つておりますが、反面市街地に  
つては、住宅地としての地理的条件に制約が生ずることも  
予想されます。で、住宅と合せて、地域開発事業の活

用も大くべからざる問題と思つて、今後国有地の所在  
場所と土地利用という長期計画策定の中で十分検  
討いたして参りたいと考えておる次第でございます。

十萬都市に対する構想というように、物質面でございま  
すが、先ほど吉田議員さんのときに申し上げましたが、館  
山市は低所得地域、或いは就取の機会があまり市街  
地にないというふうなことで人口は横ばいという形になつておる  
わけでございますが、この原因をなくするためには、地産  
業の振興と新規企業への誘致、豊富な観光資  
源の開発、京葉工業地帯がだんだんと木更津方  
面に伸びてきたうでございまして、これが通勤者の田地、  
アパートの誘致等によりまして計画的に進めて参りた  
いと考えておる次第でございます。

それから観光の具体策としては、ただいま進行中のものは

京成ゴルフ場、建設国民休暇村の施設、整備等  
があります。さらに京成が洲崎に七千五百坪はあり  
、地所を払い下げをいたしまして、これが大体集の話になり  
ます。払い下げができる段取りになっておるそうではござ  
います。これらに対する施設の充実、それから市良地方  
に亜熱帯植物園を計画などいろいろございますが、いず  
れにしましても、大きな仕事は市の現在、財政ではむか  
なやって参るわけに参りませんが、現在取りかかってありま  
すのは、城山の開発でございますが、これから市の方で  
できることは、だんだんにやって参りたいと考えております。  
それから、住宅地の新設をする考えはないか。こういう  
お尋ねでございますが、これはただ今、申し上げよう、東京  
築工業地帯がだんだん南下して参りまして、通勤  
距離も約一時間位で参るわけでございまして、この

館山の氣候、風土に恵まれたところでございます。これは、私はある人を介して八幡製鉄に合うようにしてございます。すが、まだ会いませんが、そういう会社に参りましていろいろ相談をして住宅団地、アパート、そういうものを誘致したいと考えておるわけでございます。以上でございます。

一八番(西村真次君) 前回の質問にも大きく関連してあります。また先ほどお尋ねしました国有地、果有地の数も場所もまだわかりになっておらないような様子であります。うで、こゝ以上お伺いしてもうようがないと思つうであります。すが、まず将来の構想のためになぜ前に、ぶら下つてゐる問題だけではなくて将来のために大きな構想も建ててその構想に基いてそうして調査を行はう必要があるうではないか、かように思つうわけであります。こゝをうながしたいために私は特に質問の形式を取つたわ

けでございます。

第一点うちはそれで了解いたします。なお、民間資本う  
ちでございます。が、これも先ほど申し上げたように城山  
城というふうなものも大分、当時は京銭や資本に期待を  
かけておったが、ところが最近においては、棚上げせざるを得  
ない。

ゴルフ場でございますけれども、これは地主等の関係がござ  
いまして、当初予定していたように進行していかないと思つて  
あります。というところで、一応計画はなさいましても、結  
果というものが必ずしも予定期間のように出てこない。  
この辺に何か連絡が足りないのか、或いは市が熱心意が  
足りないのか、それはわかりませんが、市が金くたで大資  
本だけをあてに、市が一銭も出さないで、というふうな  
考え方が果して適當であるかどうかと思つて、わけであり

ます。この点十分お考えをいただきたいことを要望いたします。  
なおもう一点、寶町があつたはずでございますが、

・市長(本間義君)城山で展望台の件でございますが、これは  
果の方で大体金を出して大部分は、市の方は百万円位だ  
と思ひますが、これはちやうなものでない。立派なものをやるこ  
うことで、こういうことで考えておるわけでございます。これは  
今設計、計画中でございます。

・八番(西村真次君)ただいまの点ですが、回答をいたしてもま  
りがないように思ひますので、よろしいと思ひますが、あえて申し  
上げたいと思ひます。何とにもただ市費を使ひたいが、  
自慢であつてはならぬと思ひうんです。使うべき市費は、ど  
んどん使つて、そろかり、逆に錦山でもうけるところは、これを  
もうける。こういうに構えが必要ではないか。こういうことを  
私、寶町を漏して申し上げたいわけでございます。

この展覧会に――でも、果が五景をよせてある。館山市  
は一銭も出さないんだから、どんなものを作ろうと勝手  
だ。そういう考え方では、観光施策は今後いきづまるだけだ  
私にはかように考えるわけでございます。

こゝ点々とお考えいただけます。こゝで打ち切ります。  
議長（黒川佐太郎君）二四番議員島野茂樹郎君、登壇。  
願います。

（二四番議員島野茂樹郎君登壇）（拍手）

二四番（島野茂樹郎君）私は税外負担の廃止につきまして、  
市長の御意見を承りたいと思います。

私たちが回わりには税金、ほかに当然税金でまかなう  
べきもので、地え負担とか、或いは丸々公費という名前  
で寄付を出しておるものがたくさんあるわけであります。

教育関係におきまして本年、予算案、昨年度の

予算を見ても校舎の建築、体育館、プールの建築費  
さらに、P・T・A会費を預けての教具、教材の購入、或  
いは校舎の修繕維持、そういう費用がP・T・A会費  
を預けて寄付をさせられております。

土木関係を見ましても、道路の新設とか改良、舗装費  
或いは港灣の改修費、橋をかけ、護岸工事をします。

また地元負担金を背負わねばならないわけでもあります。

また消防関係を見ましても、消防自動車を購入するた  
めには、半額を寄付してもらっております。防火の貯水  
槽、或いは消防団の後援会費、こういうふうな形で我々  
のふところから寄付金が出ております。その他にまた、  
防犯灯をつけるところにも寄付である。その維持費を寄  
付して出さねばなりません。

ゴミの処理、或いは一戸の処理にしても、私は市の経費にお

いてまかなうべきであつて、我々負担においてなされてはならないというふうに考えております。こゝように見て参りますと非常に莫大なる金が寄付金として市民のふところから出てゐることをものがたつております。こゝから寄付金についてはだれも思ひつゝ思つてゐるとは私は考えません。

自分子供教育のためであるとか或いは自分、家、前の道がよくなるとか、そういうような市民感情をたくみに利用してと申しまゝうか。或いは住民の弱身につけ込んでと申しまゝうか。市はそういう弱身につけ込んだ寄付金を我々にかゝっている。地方財政法の中にも強制寄付は禁止されております。或いは税外負担というものも禁止が明示されております。

私は法を守まうという立場からしてもこゝから税外負担は廃止、或いは禁止すべきものであると考えるわけであります。

市長はこのことについて基本的にどういうふうにお考えに  
なつておるのか。市政執行の最高責任者として、次女勸  
いを示していただきたいというのであります。これが第一点  
その次は、市長はこうように住民にかせらわている税外負担  
を廃止、或いは軽減する中、意見があまりかどうかという  
こと、これを明確にお答えいただきたいのであります。

第三点は、この税外負担の廃止乃至は軽減の方法という  
ものについて、具体的にどう尋ねたいのですが、私も現状のよ  
うな状態の中でいろいろ上げようけれども、これらも税外  
負担を一律になくするということがいかに困難であるかと  
いうことは十分承知をしております。だからといってこれを  
そのまま放置することは許さないと想います。

そこで寄付規制条例名前は、どうでもいいというわけでは  
ございませんが、仮りに寄付規制条例というふうなものを

判定をして寄付行為を規制していく。さらには、現在、負担率というものを軽減する必要があるのではないかと、いうふうに考えます。また、道路の改良工事、或いは舗装工事、こういうような問題については、少くとも長期的な五カ年計画といえますが、五カ年位の長期的な計画を立てて、それを市民に公表していただきたい。そうすれば、家や前、道路は何年度には舗装するのだ、或いは側溝を作るのだというようなことが一目瞭然になる。

陳情すれば寄付を持つてこいという形で金がある部落だけが道がよくなる。学校が建つというような形をなくしていく必要があるのではないか。道路の補修・維持管理については、部落別、不均衡をなくすという意味においても、金額市においてやっていくべきであるというふうに考えます。

それから消防組織もあり方についても、私はもう少し検討せねばならぬ点があると思います。基本的に常備消防を拡充する。そうして消防団組織をだんだんと縮小していく。こういう方向にあるべきではないかと思ひますけれども、もし市長が税外負担を廃止を——或いは軽減していくという意思があるとすれば、どのような具体的な方法によつてなさぬようにしているか、具体的に示していただきたいと思ひついでございます。

以上、税外負担、基本的にどう考えているか。それからこれを廃止軽減をする意思がおりかどうか。さらにあるとすれば、その具体的な方法はどうか。三点お尋ねいたします。(拍手)

(市長本間譲君登壇)

・市長(本間譲君) 島野茂樹郎さんに対してお答え

申し上げます。

税外負担について市長は、基本的にどう考えているかというところでございますが、税外負担の廃止乃至基本的な考え方といえども、これは理想的にいつてまた地方財政法の趣旨から、廃止すべきことが好ましく存じますが、現実的にいつて財政貧弱の域を免がたい本市の現状からいまして、短期間に新規の建設的諸事業を推進するためには、やむを得ないと存する次第でございます。ただいま税外負担と申さるゝものが、現在やっていることは義務教育の中小学校のP・T・Aの負担を軽減するため、今年も若干上げまして去年から措置をいであるわけでございます。

それから私は道路の負担金につきましても、できるだけ軽減することが、当然じゃないかと考えます。

今後検討——まゝで道路についても、時に考えて参りたい  
と思つてゐるわけでございます。以上でございます。

道路の計画は五カ年計画ができております。

。二四番(島野茂樹郎君)「法律の趣旨からいつても税外負担  
をなくすということについては、理想的には、好ま——いとい  
うも答へなわけですけれども、現在々ところでは短期間  
にそれを廃止するわけにはいかぬ。やむを得ないというこ  
とでございますが、こう今々市長の答弁の中で税外  
負担を廃止する意思はあるのだというふうに確認し  
てよろしいでございますか。これが一点、それからどうような  
方法でこういう具体的な方法が答弁の中になかったよう  
ですが、合致せま——もう一度具体的な取り得る方  
法というものがありま——たらうも答へ願いたいと思つた  
けです。以上、二番。」

・市長(本間 康君) 今後 輕減する 方法に向つて検討して参りたいと考えております。

・助役(小坂武男君) 消防団のことがおまーなんです。消防本部及び消防署の強化を以ていこうという考えかなんですか。この点につきまゝでは私どもやはり公設消防を強化を以てぞううていきたい。こゝういう方向で今、いろいろ消防署の改善といひますか。整備をいたしてあります。

従来いろいろ施設する場合にも非常にやはり予算の關係で半分を地区の負担にお願いしてありますし、ぞううたことで非常にゆゑ迷惑をかけておりますが、急遽にはもちろん参りませんが、公設を強化して除々にぞうう方向を取りたい。こゝういうふうに考えております。

・二四番(島野茂樹郎君) 税外負担につきまゝで、市当局の考え方と申したいんですが、私も今直ちに廃止せよと

いうことは先ほども申しました通り無理である。現在のところやむを得ないという立場はわかります。

一かーこれは税々二重取りという形で住民には大きな負担になっておるということ。この点をよくお考え下さい。て、地方財政改革等にもきめらねたこともあつたわけでございますから、この点をよく中検討下さいまして、このような寄付による予算の編成、それを年々減らしていくという方向で、努力いただきたいことをお願い申し上げまして、賛向を終りたいと思います。

議長（黒川佐太郎君）以上によりまして、通告者へ賛向を終わります。よって本日の会議はこゝにて散会いたします。

次回は、明三月十八日午前十時開会といたします。

その議事は議案第五号乃至第十二号昭和三十九年度一般会計並びに特別会計予算案質疑といたします。

午後五時二十九分 散会

一本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎 鈴木 正一郎

小柴 孝 館 石 伝 蔵

田 中 祿 郎 秋 山 大 三 郎

田 村 源 治 郎 望 月 照 正

安 西 益 男 辻 田 実

石 井 正 黒 川 佐 太 郎

菊 井 敏 博 志 村 信 作

小 沢 恵 太 郎 関 武 夫

西村真次

藤田好珍

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

萩生田七郎

鈴木孝

嶋田繁

山田敬宇

鈴木市蔵

安藤竜吉

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

欠席議員

安沢徳順

山口

康



